

# 官報

第三十號

大正元年九月三日

火曜日

印刷局

## ○達

陸達第五號  
 明治四十二年陸達第四十一號衛戍病院看護卒派遣規則中左ノ通改正ス  
 大正元年九月三日  
 第五條中東京第一衛戍病院ヲ「千葉衛戍病院及東京第一衛戍病院」ニ改ム  
 附表

### 看護卒派遣區分表

看護卒ハキ衛戍病院	派遣ヲ受クヘキ官衙學校	人員
陸軍歩兵學校	陸軍衛生材料廠	四
陸軍被服本廠	陸軍被服本廠	五
陸軍戸山學校	陸軍戸山學校	二
陸軍士官學校	陸軍士官學校	五
陸軍經理學校	陸軍經理學校	二
陸軍中央幼年學校	陸軍中央幼年學校	五
陸軍砲兵工科學校	陸軍砲兵工科學校	二
陸軍重砲兵射擊學校	陸軍重砲兵射擊學校	四
東京衛戍監獄	東京衛戍監獄	二
陸軍騎兵實施學校	陸軍騎兵實施學校	二
陸軍獸醫學校	陸軍獸醫學校	一
陸軍野戰砲兵射擊學校	陸軍野戰砲兵射擊學校	三
仙臺陸軍地方幼年學校	仙臺陸軍地方幼年學校	二
名古屋陸軍地方幼年學校	名古屋陸軍地方幼年學校	二
大阪衛戍監獄	大阪衛戍監獄	二
大阪陸軍地方幼年學校	大阪陸軍地方幼年學校	二

## ○告示

陸達第六號  
 陸軍將校乘馬令施行規則第二條第二號中「戸山學校」ヲ「歩兵學校」ニ改ム  
 大正元年九月三日  
 陸軍大臣 男爵上原勇作

陸達第七號  
 軍馬管理規則第六條第二項中「戸山學校」ヲ「歩兵學校」ニ改ム  
 大正元年九月三日  
 陸軍大臣 男爵上原勇作

內閣告示第四號  
 明治天皇御大喪儀ニ付本月十三日ヨリ十五日迄各官廳事務休停並諸學校授業  
 休課スヘキ旨被 仰出  
 大正元年九月三日  
 內閣總理大臣 侯爵西園寺公望

關東	朝鮮駐節	臺灣	小倉	姫路	旭川	熊本	廣島	廣島	大阪
東	駐	臺	倉	路	川	本	島	島	阪
旅	節	臺	倉	路	川	本	島	島	阪
順	京	北	倉	治	衛	陸	陸	陸	陸
衛	城	北	倉	治	衛	軍	軍	軍	軍
戍	城	北	倉	治	衛	軍	軍	軍	軍
監	城	北	倉	治	衛	軍	軍	軍	軍
獄	城	北	倉	治	衛	軍	軍	軍	軍
一	一	一	二	二	一	二	二	二	一





逓信省告示第百一號

郵便局所ニ於テ外國爲替金ノ換算ニ適用スヘキ外國貨幣換算割合左ノ如シ

大正元年九月三日

逓信大臣 伯爵林董

香港洋銀	一ダラー	四九九〇〇	一圓二付一ダラー〇一セント
暹	一ダラー	二〇二四五〇	一圓二付九十八セント五七一

其ノ他ノ貨幣換算割合ハ從前ノ通

朝鮮總督府告示第十七號

明治四十五年朝鮮總督府告示第百八號中左ノ通改正シ來九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正元年八月二十九日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

京城議政府間ヲ京城漣川間ニ改メ議政府ノ次ニ漣川ヲ加フ

關東都督府告示第十五號

大正元年九月一日ヨリ左記電話取扱所ヲ設置シ電話通話事務ヲ取扱フ但シ同所ニ對スル電話呼出ハ該溫泉場内ニ在ル者ニ限リ取扱フ

大正元年八月二十六日

關東都督 男爵福島安正

電話取扱所

瀋陽溫泉場電話取扱所  
瀋陽溫泉場電話取扱所  
瀋陽溫泉場電話取扱所

關東都督府告示第十六號

明治四十一年十二月十二日告示第百十七號電話加入區域外通話區域及其ノ電話通話料電話呼出料中左ノ通追加シ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正元年八月二十六日

關東都督 男爵福島安正

旅順瓦房店間ノ次ニ

長安順德岳城間 金七十錢

柳樹屯普蘭店間ノ次ニ 金二十五錢

金州普蘭店間ノ次ニ 金二十五錢

普蘭店瓦房店間ノ次ニ 金二十五錢

普蘭店德岳城間 金三十五錢

德子富德岳城間 金四十五錢

瓦房店德子富間ノ次ニ 金二十五錢

瓦房店德岳城間 金二十五錢

熊岳城營口間ノ次ニ 金三十錢

熊岳城海城間 金三十錢

蓋平海城間ノ次ニ

蓋平湯崗子間 金三十錢

大石橋營口間ノ次ニ 金二十錢

大石橋湯崗子間 金二十五錢

大石橋撫順間ノ次ニ 金二十錢

營口湯崗子間 金三十錢

海城營口間ノ次ニ 金二十錢

海城湯崗子間 金十五錢

海城鐵嶺間ノ次ニ 金十錢

湯崗子遼陽間 金二十五錢

湯崗子奉天間 金三十五錢

湯崗子撫順間 金五十錢

湯崗子鐵嶺間 金五十五錢

正誤

明治三十年十二月二十八日內務省告示第八十八號中乙種書讀 實効經紙本墨書卷物一巻(同卷頁町ノ項ハ衍)

昨二日逓信省告示第九十六號暨田郵便局ノ位置中野田村ハ野田町ノ誤

敍任及辭令

大正元年九月一日

大正元年九月二日

任陸軍少將

任陸軍憲兵少佐

任陸軍憲兵大尉

兼任朝鮮總督府農林學校教諭

敍高等官四等

山梨縣林業技師ニ任ス

免本職補步兵第十旅團長

補臺灣第一守備隊司令官

豫備被仰付

橫須賀鎮守府軍法官會議判士長被仰付

橫須賀鎮守府軍法官會議判士被仰付

豫備被仰付

依願免本官(以上ニハ內閣)

文官普通試驗委員ヲ命ス

文官普通試驗委員ヲ命ス(以上ニハ內閣)

特旨ヲ以テ位一級被進(九月宮內省)

臨時外務省ノ事務ニ從事スルコトヲ命ス

臨時外務省ノ事務ニ從事スルコトヲ命ス

露國在勤ヲ免ス

臨時外務省ノ事務ニ從事スルコトヲ命ス

待命中本俸全額ヲ賜フ

政務局第二課長心得兼第三課長心得ヲ免ス

和蘭國在勤ヲ免ス

臨時外務省ノ事務ニ從事スルコトヲ命ス

待命中本俸全額ヲ賜フ

從六位勳五等 有馬 寅治

從六位勳五等 平岡 茂

從六位勳五等 大橋常三郎

從六位勳五等 細田 愷吉

從六位勳五等 向坂幾三郎

從六位勳五等 中村 弘人

從六位勳五等 野島 忠孝

從六位勳五等 平岡 茂

從六位勳五等 草生 政恆

從六位勳五等 坂本 一

從六位勳五等 上泉 德彌

從六位勳五等 毛利一兵衛

從六位勳五等 李 善 暎

從六位勳五等 島 安次郎

從六位勳五等 斯波權太郎

從六位勳五等 有馬 寅治

從六位勳五等 山座圓次郎

從六位勳五等 山座圓次郎

從六位勳五等 小田德五郎

從六位勳五等 小田德五郎

從六位勳五等 小田德五郎

從六位勳五等 小田德五郎

從六位勳五等 小田德五郎

從六位勳五等 小田德五郎

從六位勳五等 小田德五郎

從六位勳五等 小田德五郎

從六位勳五等 小田德五郎

政務局第二課長心得兼第三課長心得ヲ命ス

賜二級俸

英國在勤ヲ命ス

賜五級俸

取調局勤務ヲ命ス

賜二級俸

シカゴ在勤ヲ命ス(以上ハハ三外務省)

宮城縣へ臨機出張ヲ命ス(ハ三内務省)

公使館二等書記官 窪田 文三

大使館二等書記官 吉田伊三郎

外務省參事官 吉田伊三郎

外務省參事官 奧山 清治

領事 奧山 清治

領事 阿部 嘉八

領事 阿部 嘉八

内務技師 山内喜之助

内務書記官 長野 幹

神職高等試験委員神職尋常試験委員ヲ命ス(ハ三同)

神宮神部署長 木村春太郎

神宮神部署長 宮尾 詮

神宮神部署長 稻生 一忠

神宮神部署長 藤岡 好古

神宮神部署長 神田 息胤

神宮神部署長 篠田時化雄

神宮神部署長 今泉 定助

神宮神部署長 山田大路元安

四級俸下賜

(各通)

五級俸下賜

(各通)

六級俸下賜

(各通)

神宮神部署主事 山内 豐登  
神宮神部署主事 宮原 正喬  
神宮神部署主事 吉村 春樹  
神宮神部署主事 岩井 易清  
神宮神部署主事 北山 重正  
神宮神部署主事 森津 常正  
神宮神部署主事 潮見 琢磨  
神宮神部署主事 船曳 衛

神宮神部署主事 土岐 建雄  
神宮神部署主事 矢田 隆男  
神宮神部署主事 湯谷 基守

神宮神部署主事 當山 春三  
神宮神部署主事 渡邊綱太郎  
神宮神部署主事 宮崎 丹彌  
神宮神部署主事 松岡 家範  
神宮神部署主事 藤岡 好春  
神宮神部署主事 白井 雅義  
神宮神部署主事 中川 五月  
神宮神部署主事 小川 嘉平

七級俸下賜

神宮神部署東京支署長ニ補ス  
神宮神部署長野支署長ニ補ス  
神宮神部署京都支署長ニ補ス  
神宮神部署新潟支署長ニ補ス  
神宮神部署秋田支署長ニ補ス  
神宮神部署高知支署長ニ補ス  
神宮神部署大坂支署長ニ補ス  
神宮神部署三重支署長ニ補ス  
神宮神部署山形支署長ニ補ス  
神宮神部署石川支署長ニ補ス  
神宮神部署岡山支署長ニ補ス  
神宮神部署愛媛支署長ニ補ス  
神宮神部署福岡支署長ニ補ス  
神宮神部署愛知支署長ニ補ス  
神宮神部署鳥取支署長ニ補ス  
神宮神部署大分支署長ニ補ス  
神宮神部署宮城支署長ニ補ス  
神宮神部署北海道支署長ニ補ス  
神宮神部署兵庫支署長ニ補ス  
神宮神部署長崎支署長ニ補ス  
神宮神部署群馬支署長ニ補ス  
神宮神部署静岡支署長ニ補ス  
神宮神部署岐阜支署長ニ補ス  
神宮神部署福島支署長ニ補ス  
神宮神部署青森支署長ニ補ス  
神宮神部署廣島支署長ニ補ス  
神宮神部署熊本支署長ニ補ス  
神宮神部署鹿児島支署長ニ補ス  
神宮神部署鹿兒島支署長ニ補ス(以上ハ三同)

小倉憲兵隊長陸軍憲兵中佐 境野竹之進  
憲兵練習所長陸軍憲兵中佐 藤田 耕一  
豊橋憲兵隊長陸軍憲兵少佐 水間 春明  
高田憲兵隊長陸軍憲兵少佐 柳村 忠房  
旭川憲兵隊長陸軍憲兵少佐 齋藤 幸松  
免木職補高田憲兵隊長 關東憲兵隊長陸軍憲兵少佐 齋藤 幸松  
補關東憲兵隊長 陸軍憲兵少佐 大橋常三郎

二九

補東京憲兵隊分隊長

免木職補朝鮮駐衛兵隊分隊長

關東都督府陸軍部附被免

補步兵第十聯隊長

參謀本部附被免關東都督府陸軍部附被仰付

免木職補步兵第十五聯隊大隊副官

休職被仰付

(各通)

豫備被仰付(以上九月三日陸軍省)

豫備掛命(九月三日司法省)

土木工學研究ノ爲滿三箇年間獨國英國及米國へ留學ヲ命ス

賜三級俸

本俸六級俸下賜

(各通)

本俸七級俸下賜

(各通)

十級俸下賜

(各通)

十一級俸下賜(以上八月三日文部省)

年俸千圓下賜(八月三日滋賀縣)

十二級俸下賜(八月三日福島縣)

十一級俸下賜(八月十日福岡縣)

正訓

昨二日本欄六頁上段忠實爲於苑ハ志和爲於苑ノ誤植

○宮廷錄事

○出御 天皇 皇后兩陛下ハ昨二日午前九時四分青山離宮御出門同九時三十分宮城へ出御午後零時五分宮城御出門同零時三十分青山離宮へ還御アラセラル

陸軍憲兵大尉 細田 惣吉

陸軍憲兵大尉 新庄 正史

陸軍步兵大佐 三原 辰次

陸軍步兵大佐 三原 辰次

陸軍步兵大佐 守田 利遠

步兵第十五聯隊 渡邊 洗

附陸軍步兵中尉 土居 孝雄

陸軍憲兵大尉 柴島 政位

陸軍憲兵大尉 日高 定介

陸軍砲兵中尉 山内 直二

陸軍砲兵中尉 山内 丑松

湯淺 唯一

林 桂一

今井 省三

林 桂一

三浦 慶太郎

中島 九郎

森岡 勇

影山 純介

野村 行一

石川 鐵雄

第四高等學校教授

第三高等學校教授

中原藤二郎

森 滿

東北帝國大學農科大學土木工學科教授

市立大阪高等商業學校教授

寺尾 隆一

滋賀縣農業技師 市橋友次郎

福島市立商業學校長 近藤節太郎

福岡縣立小倉高等女學校教授 酒井仙太郎

○御祝電並御答電 去月三十一日天長節ニ付キ澳地利匈牙利國皇陛下下進羅國皇陛下下、獨逸國皇陛下下、和蘭國皇陛下下、伊太利國皇太后陛下下ヨリ御祝電ヲ寄セラレタルニ對シテ御答電御發送アラセラル

大喪彙報

○拜禮時刻 本月十二日殯宮拜禮ノ時刻左ノ通定メラル

午前九時三十分ヨリ同十一時マテ

親任待遇 同夫人

公爵 同夫人

從一位 同夫人

勳一等 同夫人

一等官 同夫人

侯爵 同夫人

正二位 同夫人

午後零時三十分ヨリ同一時三十分マテ

二等官 同夫人

勅任待遇 同夫人

伯子男爵 同夫人

朝鮮貴族 同夫人

從二位以下從四位以上 同夫人

勳二等勳三等 同夫人

午後三時ヨリ同六時マテ

五等以上委任官 同夫人

貴族院議員 同夫人

衆議院議員 同夫人

○倚廬殿渡御ノ儀 倚廬殿渡御ノ儀左ノ通定メラル

九月二十一日午前八時倚廬殿正ヲ鋪設ス

大喪使事 務官奉仕

共ノ儀御殿ノ周圍ニ蘆簾銅紐絨色麻布ヲ懸ケ山陵ノ方位ニ面シ青竹ヲ以テ

御帳臺ヲ作り御帷ヲ懸ク其ノ上ニ御臺銅紐絨色麻布ヲ懸ケ御首銅紐絨色麻布ヲ鋪







# 官報

號外

大正元年九月三日

火曜日

印刷局

## ○大喪彙報

○靈柩御發軔時刻 九月十四日午前二時靈柩青山假停車場御發軔ト定メラル  
 ○大喪列車ノ發著時間、編成及乘組割 大喪列車ノ發著時間、編成及乘組割左ノ通定メラル

### ○靈柩列車發著時間

青山假停車場	九月十四日午前二時
新宿停車場	同 二時九分發
品川停車場	同 二時十六分發
國府津停車場	同 二時二十二分發
山北停車場	同 二時三十分發
沼津停車場	同 二時三十七分發
靜岡停車場	同 二時四十四分發
濱松停車場	同 二時五十一分發
豐橋停車場	同 二時五十八分發
名古屋停車場	同 三時五分發
大垣停車場	同 三時十二分發
米原停車場	同 三時十九分發
馬場停車場	同 三時二十六分發
京都停車場	同 三時三十三分發
桃山假停車場	同 三時四十分發
○第一供奉列車發著時間	
青山假停車場	九月十四日午前二時十五分發
新宿停車場	同 二時二十四分發
國府津停車場	同 二時三十一分發
山北停車場	同 二時三十八分發
沼津停車場	同 二時四十五分發
靜岡停車場	同 二時五十二分發
濱松停車場	同 二時五十九分發
豐橋停車場	同 三時六分發
名古屋停車場	同 三時十三分發
大垣停車場	同 三時二十分發
米原停車場	同 三時二十七分發
馬場停車場	同 三時三十四分發
京都停車場	同 三時四十一分發
桃山假停車場	同 三時四十八分發

### ○第二供奉列車發著時間

靜岡停車場	同 七時三十四分發
濱松停車場	同 九時三十五分發
豐橋停車場	同 十時三十分發
名古屋停車場	同 十一時二十五分發
大垣停車場	同 十二時二十分發
米原停車場	同 一時十七分發
馬場停車場	同 二時十三分發
京都停車場	同 三時九分發
桃山假停車場	同 四時五分發
○第二供奉列車發著時間	
青山假停車場	九月十四日午前二時四十五分發
新宿停車場	同 二時五十四分發
國府津停車場	同 三時三十分發
山北停車場	同 三時三十七分發
沼津停車場	同 三時四十四分發
靜岡停車場	同 三時五十一分發
濱松停車場	同 三時五十八分發
豐橋停車場	同 四時五分發
名古屋停車場	同 四時十二分發
大垣停車場	同 四時十九分發
米原停車場	同 四時二十六分發
馬場停車場	同 四時三十三分發
京都停車場	同 四時四十分發
桃山假停車場	同 四時四十七分發

官報號外 大正元年九月三日 (明治三十五年九月三日第三種郵便物認可)

靈柩列車

○大喪列車ノ編成及乗組割

第一號 (等三)	荷物	第二號 (等二)	第三號 (等二)	第四號 (等一)	第五號 (等二)	第六號 (等一)	靈柩	第七號 (等一)	第八號 (等三)	第九號 (等一)	第十號 (等三)	第十一號 (等二)	荷物	第十二號 (等三)
-------------	----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	----	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	----	--------------

鐵道院職員

大喪使密廻、大喪使屋、密廻使、使了  
待醫方  
衣敷方

明治天皇ノ御族タル華族總督  
祭官長、祭官副長、祭官  
近衛將校

侍從武官府廳  
宮内廳内舍人、舍人省了

明治天皇御近奉仕ノ高等官(送道ノ師團長乗組ムトキハ  
此ノ車室ニ入ル)

鐵道院總長  
大喪使事務官  
大喪使事務官  
天皇御名符

皇族附屬員  
大喪使書記

送道ノ知事、警務長及鐵道管  
監局長、乗組ムトキハ此ノ車  
室ニ入ル

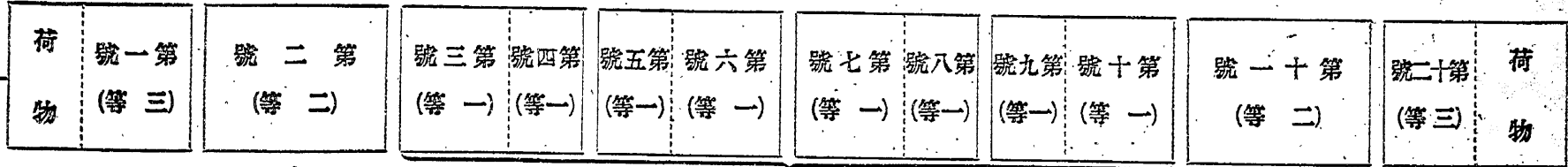
近衛將校  
拜診醫  
大喪使事務官

衣敷方  
待醫方  
宮内廳内舍人、仕人  
大喪使密廻、大喪使屋、密廻使、使了

鐵道院職員



第二供奉列車



總務課職員

大妻使番頭、使丁  
侍醫、省丁  
鐵道院職員

東京在勤ノ勅任官總代  
同 委任官總代  
有爵者總代  
朝鮮貴族總代  
宮内勅任官總代  
同 委任官總代  
京都府下及鄰近府縣下在勤ノ勅任官  
京都府下在勤ノ委任官總代  
京都府下在住ノ有爵者  
京都府會議長

鐵道院職員

○大喪列車乗組諸員心得 大喪列車乗組諸員心得左ノ如シ

大喪列車乗組諸員心得

一 大喪列車ハ靈柩列車第一供奉列車及第二供奉列車トス

一 靈柩列車ノ分ハ鈍色、第一供奉列車ノ分ハ柑子色、第二供奉列車ノ分ハ白色ノ各乗車證ヲ調製シテ之ヲ交付ス

一 乗車證ニハ車室ノ番號ヲ記載シアルニ付キ各自ハ其ノ指定シタル車室ヲ無斷ニ變更セサルコト

一 大喪列車ニ乗組ヲ許サレタル者ハ九月十日、十一日兩日中ニ官職氏名ヲ記載シタル書面ヲ大喪使鐵道部ニ差出シ乗車證及託送手荷物收車中携帶手廻品ニ添附スヘキ荷札ノ交付ヲ受クルコト

一 乗車證ハ各自之ヲ携帶シ遺忘紛失等ナキ様注意ノコト乗車證ナキ者ハ乗車ヲ拒絶スルコトアルヘシ

一 乗車證ハ桃山京都間ノ大喪使用臨時列車ニモ使用シ得ヘキニ付キ必要ノ期間保存スルコト

一 青山假停車場内乗組場所ハ靈柩列車ハ南側「プラットホーム」、第一供奉列車ハ北側「プラットホーム」、第二供奉列車ハ南側「プラットホーム」(第一供奉車側車後)トス

一 大喪列車ニ乗組ム者ハ葬場殿御式終了後後門ヲ閉チタルトキハ掛員ヨリ注意スヘキニ付キ速ニ竹垣外東北隅ノ鐵道線路附近ニ假設シタル大喪列車乗組者控所(天)ニ集合ノコト

一 靈柩列車ニ乗組ム者ハ靈柩乗御ノ前停車場ニ至リ乗車證ヲ掛員ニ示シ各車室ノ前ニ起立シテ靈柩乗御ノ上車内ニ入ルコト

一 第一供奉列車ニ乗組ム者ハ靈柩列車發車後速ニ向側「プラットホーム」ニ至リ乗車證ヲ掛員ニ示シ各車室ニ入ルコト

一 第二供奉列車ニ乗組ム者ハ靈柩列車發車後南側「プラットホーム」ニ至リ乗車證ヲ掛員ニ示シ同列車ノ入線ヲ待チ各車室ニ入ルコト

一 青山葬場殿ニ參列セサル者ニシテ第一供奉列車又ハ第二供奉列車ニ便乗セムトスルトキハ新宿停車場ニ至リ該列車ノ到着ヲ待チ乗車證ヲ掛員ニ示シ乗組ムコト

一 各列車ニ乗組ム者ハ乗降ノ際靜肅ヲ旨トシ混雜セサル様特ニ注意ノコト

一 大喪使職員及宮内省職員ノ荷物ハ大喪使用度部ニ於テ九月十二日午前中ニ各自ヨリ取集メ大喪使鐵道部ト協同シテ大喪列車著車前ニ到着スル様

一 桃山へ輸送ノコト但シ當日乗組ノ際ハ特ニ小形ノ手廻品一箇ニ限り其ノ列車内ニ持込ムコトヲ得ルニ付キ此分ニ付テハ大喪使用度部ニ於テ九月十三日午前中ニ各自ヨリ取集メ大喪使鐵道部ト協同シ前以テ各乗組ノ車室内ニ入レ置クコト

一 前項ノ荷物ハ桃山著車ノ上ハ大喪使用度部員、鐵道部員協同シテ番皆假停車場前休所(小學校)ニ運搬シ置キ各自ハ同所ニ於テ適宜受取ルコト

一 便乗諸員ノ荷物ハ豫メ京都停車場又ハ桃山假停車場ニ宛テ送付シ置クヘキニ付キ該荷物ニ豫メ大喪使鐵道部ヨリ受取リタル荷札ヲ添ヘ九月十三日午後二時マテニ新橋停車場内ニ大喪列車便乗者荷物受付掛ニ差出スコト但シ京都市内ニ於ケル宿先ニ配達ヲ望ムモノハ九月十二日午後五時マテニ同掛ニ差出スコト

一 便乗諸員ニシテ車内入用ノ小形手廻品ヲ携帶セムトスルトキハ一箇ニ限り荷札(前以テ大喪使鐵道)ヲ其ノ手廻品ニ貼附シ九月十三日午前中ニ新橋停車場ニ送付スルコト

一 青山假停車場及途中停車驛ニ於テハ荷物ノ積込ヲ許サズ

一 靈柩列車通過ノ沿道所轄ノ府縣知事、警務長及師團長ハ第一供奉列車ニ便乗スルコトヲ得但シ管轄内ハ靈柩列車ニ移乗ノコト

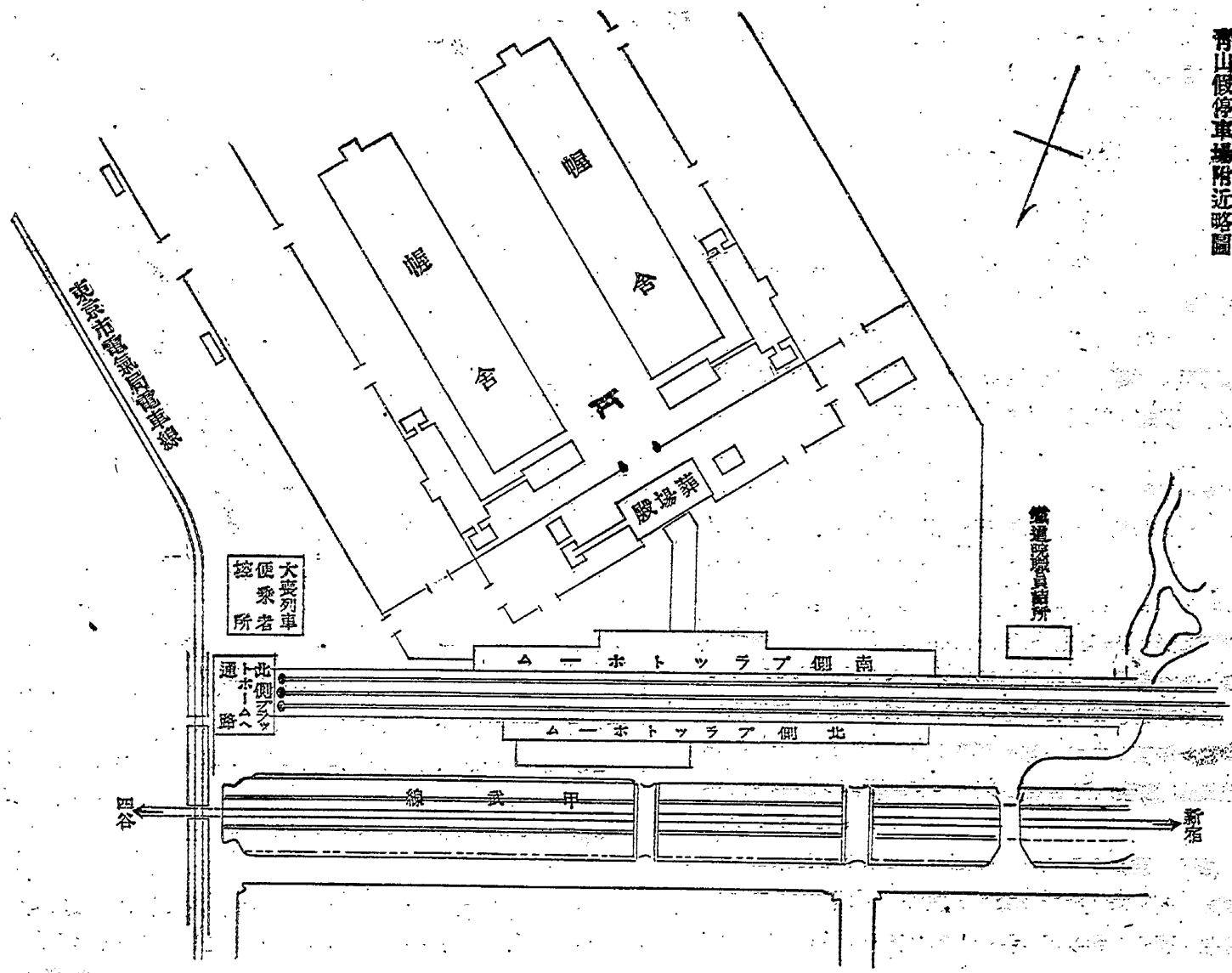
一 靈柩列車内前部及後部ニ各一班、第一供奉列車、第二供奉列車ニ各一班ノ侍醫乘組乗組ミ車中應急ノ醫療ニ従事ス

一 各列車共朝食、晝食、晩食及湯茶ノ用意ヲ爲シ時刻ヲ見計ラロ各自ニ配付ス

一 大喪列車ニ乗組ム者ノ服装ハ園簿内ノ者又ハ葬場殿ニ參列シタル者ニ在リテハ其ノ儘トシ其ノ他ノ者ニ在リテハ高等官ハ大禮服正裝正服、宮内判任官ハ供奉服、他ノ判任官ハ通常禮服、其ノ他ハ制服アル者ハ制服制

一 服ナキ者ハ通常服フロッツ、黒丸帽トス何レモ喪章ヲ附ス但シ第一供奉列車及第二供奉列車ニ乗組ム判任官ハ通常服フロッツ、黒丸帽ヲ着用スルモ妨ケナシ

海山線停車場附近略圖



○九月十三日葬場殿總門第一島居間ニ於テ臚列奉拜ヲ許サレタル者左ノ如シ

一 官制上ノ各種委員

二 東京府會議員

三 東京府各郡會議員

四 東京市會議員

五 東京市大喪儀委員

六 東京市各區會議員

七 東京府下ノ各町村長及內務大臣ノ選擧シタル町村長及內務大臣ノ選擧

シタル町村ノ代表者

八 在外居留民總代

九 神佛各宗派ノ管長事務取扱

十 大本山住職及御由緒アル寺院ノ住職

十一 基督教各派ノ代表者

(注意)

一 第一ノ者ハ各所管廳ニ第二第三第七第九乃至第十一ノ者ハ內務省ニ  
第四乃至第六ノ者ハ東京市役所ニ第八ノ者ハ外務省ニ於テ各自參入

證ヲ受取ルコト

一 服裝ハ通常禮服(燕尾) (黒高帽)喪章ヲ附ス神佛各宗派ノ管長事務取扱

及住職ハ之ニ相當スル服

一 十三日午後六時ヨリ同七時三十分マテノ間ニ青山通表門ヨリ入場ノ  
コト

# 官報

第三十一號

大正元年九月四日

水曜日

印刷局

## ○勅令

朕休日ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

### 御名 御璽

大正元年九月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第十九號  
左ノ祭日及祝日ヲ休日トス

- 元始祭 一月三日
- 新年宴會 一月五日
- 紀元節 二月十一日
- 神武天皇祭 四月三日
- 明治天皇祭 七月三十日
- 天長節 八月三十一日
- 神嘗祭 十月十七日
- 新嘗祭 十一月二十三日
- 春季皇靈祭 春分日
- 秋季皇靈祭 秋分日

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治六年太政官布告第三百四十四號ハ之ヲ廢止ス

## ○省令

宮内省令第四號

明治三十九年宮内省達乙第五號學習院規則中左ノ通改正ス

大正元年九月四日

宮内大臣 伯爵渡邊千秋

第十三條中孝明天皇祭ヲ「明治天皇祭」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大藏省令第二號

大喪使旅費規程左ノ通定ム

大正元年九月四日

大藏大臣 山本達雄

大喪使旅費規程

- 第一條 大喪費ノ支辨ニ屬スル旅費ハ本規程ニ依リ之ヲ支給ス
- 第二條 旅費ハ左ノ區別ニ從ヒ内國旅費規則表ノ定額ヲ支給ス
- 一 本官アル者ニハ本官相當ノ額待遇アル者ニハ其ノ待遇相當ノ額
- 二 宮内官ニハ内國旅費規則表ニ照準シ各其ノ相當額
- 三 大勳位、貴衆兩院議長ニハ親任官相當ノ額
- 四 華族朝鮮貴族從四位以上、勳三等以上ノ者ニハ勅任官相當ノ額
- 五 府會議長ニハ奏任官五等以上ノ額
- 六 葬場殿ニ參集ヲ命セラレタル各夫人ノ旅費ハ其ノ夫ノ受クヘキ額
- 七 雇員(宮内省其ノ他各官廳勤及宮内省勤務ノ等外職員又ハ雜仕ニシテ給料月額六十五圓以上ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ額其ノ二十五圓以上ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ額)
- 前項第一號ニ該當スル者ニシテ官等又ハ級俸ノ配當ナキ者ニ支給スル額ハ各其ノ最高定額ヲ超過セサル範圍内ニ於テ總裁之ヲ定ム
- 第三條 前條ニ該當セサル者ノ旅費ニ關シテハ大藏省所管旅費支給規則ノ定ムル所ニ依ル但シ雇員及宮内省勤務ノ等外職員又ハ雜仕ニシテ給料月額二十五圓未滿ノ者及給料ナキ者ニハ同規則別表ノ甲額、小者ニハ乙額ヲ支給ス



第四條 特ニ參列ノミヲ命セラレ旅行スル者ニハ順路ニ依リ居住地ヨリ用務地ニ至ル往復旅費ヲ支給ス但シ用務地到著ノ翌日以後ニ於ケル滞在在中ノ日當及宿泊料ハ參列ノ當日ニ限り之ヲ支給ス

第五條 朝鮮 臺灣又ハ樺太内旅行ニ在リテハ大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮 臺灣及樺太内旅費支給規則ニ依リ關東州内ノ旅行ニ在リテハ外國旅費規則ニ依リ第二條ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

第六條 鐵道事務ニ從事スル鐵道院職員ノ旅費ハ鐵道院内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

第七條 陸海軍軍人軍屬ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一 陸軍軍人軍屬ニシテ單獨旅行ノ者ニハ陸軍旅費規則第一表(朝鮮 臺灣及テハ第八表 清國ニシテ)ノ定額 隊伍旅行ノ者ニハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ在リテハ第九表)ノ定額(旅費額)以內ニ於テ實費支辨トシ別ニ第六表ノ同規則第五表ノ定額(旅費額)以內ニ於テ實費支辨トシ別ニ第六表ノ旅次手當ヲ支給ス

二 海軍軍人軍屬ニシテ單獨旅行ノ者ニハ海軍内國旅費規則第二表ノ定額及海軍清韓樺太旅費規則第一表ノ定額 隊伍旅行ノ者ニハ海軍内國旅費規則第六表ノ定額

前項旅費ノ支給方ニ關シテハ陸軍ニ在リテハ陸軍旅費規則海軍ニ在リテハ海軍内國旅費規則及海軍清韓樺太旅費規則ニ準據ス但シ第四條ノ適用ヲ妨ケス

第八條 警務ニ從事スル警察官ノ旅費ハ警察官吏内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

第九條 旅費ノ支給方ニ關シテ本規程ニ定メナキモノハ内國旅費規則及大藏省所管旅費支給規則ニ準據ス

第十條 本規程ニ依リ難キ事由アル場合ニ於テハ其ノ都度別ニ之ヲ定ム

内務省告示第十號

神奈川縣橫濱市根岸町三千六百五十二番地住

米國人 エドワード・ロイド

内務大臣 原敬

右日本帝國へ歸化ヲ允許セリ

大正元年九月四日

遞信省告示第百二號 明治四十三年三月遞信省告示第四百五十七號料金受信人拂外國新聞電報ヲ取扱フ通信官兼中(大阪中央電信局)ノ次ニ京都郵便局ヲ追加ス

大正元年九月四日

遞信大臣 伯曾林董

敍任及辭令

大正元年九月三日

兼任農商務技師 野中瀨次郎  
兼高等官三等 成松德一郎  
兼任農商務技師 舘野 康  
兼高等官四等 舘野 康  
兼任農商務技師 舘野 康  
兼任農商務技師 舘野 康  
兼高等官五等 舘野 康  
兼農商務技師 舘野 康  
兼高等官五等 舘野 康

七級俸下賜 竹内濟三郎  
年俸參拾圓下賜 舘野 康

(各通)

二級俸下賜 鹿兒島縣事務官補 杉野 繁  
五級俸下賜 山口縣技師 淺海 脩藏  
三級俸下賜 鹿兒島縣野郡長 鳥居 和邦  
年俸千八百圓下賜(以上ハハル内務省) 鹿兒島縣西郡長 井内恭太郎

免本職補步兵第三十聯隊附 鹿兒島縣美馬郡長 岩野三根雄  
免本職補步兵第三十聯隊中隊長 鹿兒島縣大島島司 森谷八千夫  
免本職補步兵第三十聯隊中隊長 鹿兒島縣大島島司 富田 嘉則  
免本職補步兵第三十聯隊中隊長 鹿兒島縣大島島司 五十嵐真平  
免本職補步兵第三十聯隊中隊長 鹿兒島縣大島島司 菅原 真吉  
免本職補步兵第三十聯隊中隊長 鹿兒島縣大島島司 吉井 靜吉  
免本職補步兵第三十聯隊中隊長 鹿兒島縣大島島司 錦織松三郎  
免本職補步兵第四十七聯隊中隊長 佐々木 久  
免本職補獨立守備第三大隊副官 野口 惣三  
免本職補獨立守備第三大隊副官 山下 似瀧  
免本職補陸軍經理學校生徒隊附 曾根田謙治  
免本職補野砲兵第二聯隊附 能本 豊起  
免本職補野砲兵第二聯隊附 佐藤伊三郎  
免本職補野砲兵第二聯隊附 佐藤伊三郎

免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 東川 滋治  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 前田 二郎  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓

免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓

免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓

免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓

免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓

免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓  
免本職補野砲兵第二聯隊大隊副官 步兵第十二聯隊附陸軍砲兵中尉 野村 禮讓

○廣告

○入場證交付ノ件

九月十三日大喪儀ノ節正七位勳七等以下ノ有位帶勤者ハ青山練兵場表門番場段總門開御通路ノ兩側ニ於テ奉拜ヲ許サル...

○醫籍登録

醫師法第四條ニ依リ醫籍ニ登録シタル者左ノ如シ

大正元年九月

登月日

族籍

氏名

内務省

申請書經由官公署

東京帝國大學醫學科大學醫學科卒業者 藤原 清耳 東京府東京市本郷區役所

千葉醫學專門學校醫學科卒業者 小杉 文吉 新潟縣北蕨郡役所小出町役場

岡山醫學專門學校醫學科卒業者 西川 勝彦 東京府豊多摩郡役所送谷町役場

長崎醫學專門學校醫學科卒業者 岩男 其三郎 佐賀縣佐賀市役所

京都府立醫學專門學校醫學科卒業者 鹿兒島縣龍毛郡役所南種子村役場

私立東京慈惠會醫務學專門學校醫學科卒業者 豊彦 鹿兒島縣龍毛郡役所南種子村役場

東京府立醫學專門學校醫學科卒業者 三船 國太 長野縣北佐久郡役所

東京府立醫學專門學校醫學科卒業者 三船 國太 長野縣北佐久郡役所

東京府立醫學專門學校醫學科卒業者 三船 國太 長野縣北佐久郡役所

東京府立醫學專門學校醫學科卒業者 三船 國太 長野縣北佐久郡役所

東京府立醫學專門學校醫學科卒業者 三船 國太 長野縣北佐久郡役所

○齒科醫籍登録

齒科醫師法第四條ニ依リ齒科醫籍ニ登録シタル者左ノ如シ

大正元年九月

登月日

族籍

氏名

内務省

申請書經由官公署

齒科醫師試驗合格者 埼玉縣平民 常木 哲之助 靜岡縣志太郡役所

○藥劑師名簿登録

藥劑師法第五條ニ依リ藥劑師名簿ニ登録シタル者左ノ如シ

大正元年九月

登月日

族籍

氏名

内務省

申請書經由官公署

藥劑師試驗合格者 長野縣平民 松村 精次 長野縣諏訪郡役所

○免許證再下付

醫師法施行規則第四條ニ依リ醫師免許證ヲ再下付ヲ爲シタル者左ノ如シ

大正元年九月

登月日

族籍

氏名

内務省

申請書經由官公署

醫師免許證ヲ書換ヘ下付シタル者左ノ如シ 福島縣平民 吉田 安雄 福島縣西白河郡役所

○證狀書換下付

醫師免許證ヲ書換ヘ下付シタル者左ノ如シ

大正元年九月

登月日

族籍

氏名

内務省

申請書經由官公署

醫師免許證ヲ書換ヘ下付シタル者左ノ如シ 宮城縣平民 齋 俊平 宮城縣

○參學告知

東京帝國大學學生生徒ニ告グ 本月十三日午前八時本學ニ於テ...

官報 第三二號 大正元年九月五日(第三種郵便物認可)

○證書無效  
第九七九號 一等機關士免狀明治三十七年一  
右紛失ノ旨届出ニ依リ無効トス  
大正元年九月

○不能還付郵便物  
明治四十五年七月申當局監督區内ニ於テ還付シ能ハサル内國郵便物左ノ通ニ付キ心當ノ者ハ當局又ハ  
差出地ノ郵便局ニ申出テラルヘシ  
大正元年九月

大正元年九月  
大正元年九月  
大正元年九月

一有價物件在中郵便物  
大阪府西區幸町二丁目 山本仁三郎  
府内下鴨村 原田九子  
大阪北區 才キタヒロ  
大坂より  
其他  
一其他  
府下東放郡天王寺村九四九遊米園東  
高橋 忠藏

○字名改稱並區域變更

第一種 一五五八通  
第二種 三二七七  
第三種  
第四種  
第五種 一七  
第六種 四〇

Table with columns for '大字字番' (Large Character Numbers), '大字字所' (Large Character Locations), '地目' (Land Purpose), and '段別' (Segment Classification). It lists various locations and their corresponding numbers and classifications.

遞信省

大阪遞信管理局

Large table listing postal routes and locations. Columns include route names (e.g., 山御所, 水御所), distances, and specific locations. Includes a vertical note on the left: '印南郡北濱村ノ内北勝村及西濱村ニ於テ大字及字區域並字名稱ヲ本月三日左ノ通變更セリ'.

第四號書式  
種牡馬種付簿

種名	種別	種類	名	年	齡	毛色	特微	種付月日				産駒	摘要	住所	氏名
								種	付	月	日				
種類名	種別	種類	名	年	齡	毛色	特微	種	付	月	日	産駒	摘要	住所	氏名
種類名	種別	種類	名	年	齡	毛色	特微	種	付	月	日	産駒	摘要	住所	氏名

○告示

鐵道院告示第十二號  
明治四十五年五月鐵道院告示第五十一號急行列車券規程第一條本文末尾ニ左ノ  
追加ス  
大正元年九月六日  
鐵道院總裁 原敬  
臨時運轉ノ急行列車又ハ左ノ普通急行列車ニ臨時聯結ノ規定外等級車ニ就  
キ亦同シ此場合ニ於テハ關係停車場ニ之ヲ揭示ス

遞信省告示第百六號  
本月十一日ヨリ左記郵便局ニ電話交換業務ヲ開始シ電報規則第七十五條ニ依  
ル電話加入者ノ託送電報ヲ取扱フ  
大正元年九月六日  
遞信大臣 伯耆林董

遞信省告示第百七號  
滋賀縣内ニ在ル各郵便局ニ於テハ郵便振替貯金ニ依ル債券募集ニ元利金支拂  
並貸付事務特別取扱規則ニ基キ左記事項ニ依リ株式會社滋賀縣農工銀行ノ發  
行ニ係ル第七回農工債券ノ募集事務ヲ取扱フ  
大正元年九月六日  
遞信大臣 伯耆林董

第七回農工債券特別取扱要項  
一 申込期間  
大正元年九月十六日ヨリ同月二十五日迄郵便局ニ於テ  
其ノ申込ヲ受理スルコト

官報 第三三號 大正元年九月六日

二 申込證據金 額面百圓ニ付金二圓ノ割合ヲ以テ申込證ト共ニ郵便局  
ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘキコト  
三 拂込期間 募入確定ノ應募者ハ大正元年十月十一日ヨリ同月十五  
日迄ニ最初申込ヲ爲シタル郵便局ニ證據金受領證ヲ添  
ヘ應募金額ノ拂込ヲ爲シ債券ノ交付ヲ受クヘキコト  
四 證據金ノ還付 募入外レトナリタル申込證據金ハ最初申込ヲ受ケタル  
郵便局ニ於テ受領證ト引換ニ之ヲ申込人ニ還付スルコ  
ト  
五 其 他 前各號ノ外ハ當該銀行ニ於テ定メタル條件ニ依リ取扱  
フコト

○辭令

野砲兵第十八聯隊へ被差遣 侍從武官男爵 山根 一實  
大隈儀參列特派使節接伴事務委員附ヲ命ス(以上五ノ宮内省) 式部官 朝倉 義高  
中清派遣步兵隊附被免 步兵第五十六聯隊附陸軍步兵中尉 岩見 逸爾  
中清派遣步兵隊附被仰付 陸軍步兵中尉 廣田 正爾  
補步兵第三十聯隊附 陸軍一等主計 清水菊三郎  
補第一師團經理部部員 陸軍一等主計 服部伊之助  
免兼職 騎兵第十六聯隊附兼第一師團經理部部員陸軍一等主計 鵜飼伊三郎  
兼補第一師團經理部部員 騎兵第十五聯隊附陸軍一等主計 服部伊之助  
免本職補豫要塞司令部附 步兵第七十一聯隊 附陸軍二等主計 小林 梅吉  
陸軍兵器本廠並築城部本部御用掛兼勸ヲ命ス 豫豫要塞司令部附陸軍二等主計 小林 梅吉  
陸軍兵器本廠並築城部本部御用掛兼勸ヲ免ス 豫豫要塞司令部附陸軍二等主計 立石 憲  
免本職補步兵第七十一聯隊附 陸軍二等主計 立石 憲  
陸軍省經理局御用掛兼勸ヲ命ス 陸軍經理學校教官 吉村兼太郎  
東京帝國大學大學院入學被免 陸軍一等主計 磯山謙太郎  
補陸軍獸醫學校教官兼同校病馬廠廠員 陸軍一等獸醫 磯山謙太郎  
免本職並兼職東京帝國大學大學院入學被仰付(以上五ノ宮内省) 陸軍一等獸醫 新美 信太  
(各通) 陸軍獸醫學校教官兼同校病馬廠廠員 陸軍一等獸醫 新美 信太  
司法官試補 佐倉八十松  
司法官試補 吉田 清

(各通)

七級俸下賜 (以上明 文部省)  
十一級俸下賜 (以上明 文部省)  
出京ノ命ス(補助同)

第三高等學校教授 山口高等商業學校教授 鳥 文次郎  
盛岡高等農林學校教授 三宅 隆人  
文部技術師(在秋田) 新山平四郎  
井上實之助

十三級俸下賜(八切山梨縣) 山梨縣林業技師 中村 弘人  
年俸八百四拾圓下賜(九切山梨縣) 岐阜縣岐阜市立岐阜商業學校校長 尾坪卯之助  
八級俸下賜(九切山梨縣) 岐阜縣岐阜市立岐阜商業學校校長 石川竹三郎  
休職ヲ命ス(八切山梨縣) 鳥取縣立鳥取高等女學校教諭 岩永 松二  
十級俸下賜(七切山梨縣) 鳥取縣立鳥取高等女學校教諭 高野泰四郎  
十二級俸下賜(以上八切山梨縣) 島根縣師範學校教諭 加藤 正直  
十級俸 當分七百 下賜(八切山梨縣) 島根縣立富岡 中學校教諭  
八級俸下賜(八切山梨縣) 鹿兒島縣立商船水產學校校長

宮廷錄事

○出御 天皇 皇后兩陛下ハ昨五日前九時三分青山離宮御出門同九時三十分宮城へ出御午後零時五分宮城御出門零時三十分青山離宮へ還御アラセラレタリ  
○皇族御著 守正王殿下ハ昨五日名古屋ヨリ御上京相成リタリ

大喪彙報

○遙拜並參拜 青山葬場殿御式後九月十五日ヨリ十月十五日ニ至ル間午前八時ヨリ午後四時マテ一般人民ノ遙拜差許サレ又桃山陵所御式後九月十八日ヨリ十月十五日ニ至ル間午前八時ヨリ午後四時マテ一般人民ノ參拜差許サル

彙報

官廳事項

○官吏發着 松川第十師團長ハ射擊名譽旗授與要領幹部演習視察ニ第三第四期教育檢閲視察ノタメ福知山及舞鶴ニ向ヒ去月三十一日第十一師團參謀長白川義則ハ步兵第四十四師團第四期檢閲ノタメ同衛戍地ニ向ヒ去月一日仁田原野ニ師團長ハ地理實査ノタメ福知山及舞鶴ニ向ヒ去月一日第四師團長ハ野砲兵第四師團第三期檢閲ノタメ同師團參謀長志岐守治ハ師團長隨行トシテ滋賀縣高島郡栗庭野ニ向ヒ第十師團參謀長若光真臣ハ第三第四期教育檢閲視察ノタメ福知山及舞鶴ニ向ヒ去月三日就モ出發月二十四日出發同二十九日滋賀山口縣豐浦郡地方へ出張ノ山根第十二師團長ハ同三十一日富山縣立野

原へ出張ノ神尾第九師團長及同師團參謀長白水濱富山縣城端町地方へ出張ノ丹羽步兵第六旅團長ハ本月二日就モ歸著非野口步兵第三十一旅團長ハ夏季連合演習統制ノタメ富山縣城端町地方ニ向ヒ去月二十八日出發本月三日森町及藤枝町へ出張ノ淨法寺步兵第二十九旅團長ハ昨日就モ歸著セリ  
學術上取調ノタメ秋田 青森二縣下へ出張ヲ命セラレタル石川東京帝國大學農科大學教授ハ去月二十七日出發セリ  
○官吏卒去 退職判事從五位勳六等永野法城ハ去月二十六日卒去セリ

○辯護士名簿登錄 宮城縣平民大谷元ノ請求ニ依リ本月二日東京地方裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ニ登錄セリ  
○辯護士名簿登錄換 大分地方裁判所所屬辯護士小野善作ノ請求ニ依リ本月二日東京地方裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ノ登錄換ヲ爲セリ  
○辯護士名簿登錄取消 廣島地方裁判所所屬辯護士永野法城ハ死去ニ因リ去月三十日所屬裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ノ登錄ヲ取消セリ

○破産管財人死去 福岡地方裁判所管内破産管財人松延忠次ハ去月二十四日死去セリ

陸海軍

○簡閱點呼 第十五師團管本年簡閱點呼施行日左ノ如シ(陸軍省)  
靜岡縣  
靜岡市 九月九日ヨリ九月一日ニ至ル  
安倍郡 九月十七日ヨリ九月十七日ニ至ル  
富士郡 九月二十八日ヨリ十月二日ニ至ル  
駿東郡 十月三日ヨリ十月九日ニ至ル  
庵原郡 十月十日ヨリ十月十四日ニ至ル  
田方郡 九月十六日ヨリ九月二十五日ニ至ル  
賀茂郡 九月二十六日ヨリ十月二日ニ至ル  
志太郡 九月二十一日ヨリ十月二日ニ至ル  
榛原郡 九月十七日ヨリ九月二十二日ニ至ル  
小笠郡 九月二十五日ヨリ十月二日ニ至ル  
周智郡 十月七日ヨリ十月十三日ニ至ル  
磐田郡 九月十五日ヨリ九月十九日ニ至ル  
濱名郡 九月九日ヨリ九月十一日ニ至ル  
○不要徵兵終決處分者 島根縣ニ於ケル所在不明ノ徵兵終決處分者中徵兵處分滿四十歲超過死亡所在發見等ノタメ爾後調査ヲ要セサル者左ノ如シ(島根縣)

明佐郡 十月十二日ヨリ十月十五日ニ至ル  
濱松市 十月十日ヨリ十月十一日ニ至ル  
愛知縣  
豐橋市 九月十七日ヨリ九月十八日ニ至ル  
寶飯郡 九月十九日ヨリ九月二十四日ニ至ル  
南設樂郡 九月二十六日ヨリ九月三十日ニ至ル  
八名郡 十月六日ヨリ十月十五日ニ至ル  
渥美郡 十月六日ヨリ十月十四日ニ至ル  
額田郡 九月二十一日ヨリ九月二十六日ニ至ル  
額豆郡 十月五日ヨリ十月九日ニ至ル  
春海郡 十月十一日ヨリ十月二十日ニ至ル  
北設樂郡 十月十五日ヨリ十月二十二日ニ至ル  
東加茂郡 十月十四日ヨリ十月十八日ニ至ル  
西加茂郡 十月十九日ヨリ十月二十二日ニ至ル  
長野縣  
西筑摩郡 九月十九日ヨリ九月二十五日ニ至ル  
上伊那郡 九月十七日ヨリ十月七日ニ至ル  
下伊那郡 九月十九日ヨリ十月二十八日ニ至ル  
岐阜縣  
惠那郡 九月十九日ヨリ九月二十五日ニ至ル



(各通) 大喪儀參列瑞典國特派使節接伴員被仰付  
式部官 酒井清三郎  
海軍大尉 鷗野 正方

(各通) 大喪儀參列墨西哥國特派使節接伴員被仰付  
陸軍步兵少佐 樋渡 盛廣  
式部官 松根豐次郎

(各通) 大喪儀參列和蘭國特派使節接伴員被仰付  
陸軍步兵少佐 畑 英太郎  
式部官 岡田平太郎

(各通) 大喪儀參列和蘭國特派使節接伴員被仰付  
式部官 高辻 宜賢  
海軍少佐 永野 修身

(各通) 大喪儀參列暹羅國特派使節接伴員被仰付  
式部官 鍋島精次郎  
海軍大尉 鈴木 秀次

(各通) 大喪儀參列白耳義國特派使節接伴員被仰付  
式部官伯爵 前田 利同  
海軍少佐 三宅大太郎

(各通) 大喪儀參列智利國特派使節接伴員被仰付  
陸軍步兵中佐 金谷 範三  
式部官子爵 海江田幸吉

(各通) 大喪儀參列丁抹國特派使節接伴員被仰付  
陸軍步兵中佐 齋藤常三郎  
式部官 加藤 泰通

(各通) 大喪儀參列亞爾然丁國特派使節接伴員被仰付  
陸軍步兵大尉 井上 虎  
式部官 松宮龍太郎

(各通) 大喪儀參列葡萄牙國特派使節接伴員被仰付(以上九明宮内省)  
陸軍步兵大尉 澁谷伊之彦  
式部官 高橋 傳

五級俸下賜 專賣局主事補 森永秀次郎  
六級俸下賜 稅務官 佐藤榮次郎  
六級俸下賜 稅務官 加藤 章司

補高知稅務署長(以上九明大藏省) 稅務官 三好友三郎  
補半田稅務署長 稅務官 吉田 孟子  
免木職 稅務官 吉田 孟子

待命被仰付(但舞廳二補) 海軍軍令部出仕海軍中佐 保坂彦太郎  
免木職補應島副長 海軍中佐 吉田 孟子

兼補海軍機關學校教官 海軍工機學校教官 海軍機關少佐 安住 信一  
兼補海軍機關學校教官 海軍工機學校教官 海軍機關少佐 安住 信一

免兼職 海軍工機學校教官兼海軍機關少佐 安部 高次  
關學校教官海軍機關少佐 倉橋審一郎

(各通) 橫須賀鎮守府附被免實地練習ノ爲メ吳海軍工廠附被仰付 海軍造兵中技士 今井 博茂  
海軍造兵中技士 馬場 俣躬

(各通) 橫須賀鎮守府附被免實地練習ノ爲メ海軍造兵廠附被仰付 海軍造兵中技士 深井 宗吉  
海軍造兵中技士 佐々木正司  
海軍造兵中技士 坪井 眞男

免兼職(以上九明海軍省) 廣木 八郎  
羅馬法講座兼擔ヲ命ス 廣木 八郎  
千賀精太郎  
田島 錦治

英吉利法第一講座分擔ヲ命ス 京都帝國大學法科大學教授法學博士 戶田 海市  
經濟學第二講座分擔ヲ命ス 京都帝國大學法科大學教授法學博士 毛戸 勝元

英吉利法第二講座分擔ヲ命ス 京都帝國大學法科大學教授法學博士 神戶 正雄  
經濟學第二講座分擔ヲ命ス 京都帝國大學法科大學教授法學博士 佐藤丑次郎

英吉利法第二講座分擔ヲ命ス(以上八明文部省) 和田垣謙三  
農政學經濟學第一講座分擔ヲ命ス 東京帝國大學法科大學教授法學博士 河津 運

經濟學第四講座分擔ヲ命ス 東京帝國大學法科大學教授法學博士 松岡 均平  
經濟學第四講座分擔ヲ命ス(以上九明同) 岡山縣立津山中學校教授 松下虎次郎

### ○宮廷錄事

○出御 天皇 皇后兩陛下ハ昨六日午前九時青山離宮御出門同九時三十三分宮城へ出御午後零時二十二分宮城御出門同零時五十分青山離宮へ還御アラセラルメリ  
○皇族御發着 邦彦王殿下ハ一昨五日京都ヨリ御上京相成リ、邦英王殿下ハ同所へ御旅行ノ處同日御歸京相成リメリ

### ○彙報

### ○官廳事項

○墨國公使館附外交官補著任 サンチアゴ・ア・ペルデン(Santiago H. Pardo)在本邦墨國公使館附外交官補ニ任命セラレ著京就職セシ旨同國公使ヨリ去月三十日附ヲ以テ通知アリ

# 官報

號外

大正元年九月七日

土曜日

印刷局

## ○大喪彙報

○靈輦御出門時刻 九月十三日午後八時靈輦宮城御出門ト定メラル  
 ○靈輦桃山假停車場出御時刻 九月十四日午後六時三十分靈輦桃山假停車場

ヨリ陵所へ進御ノ事ニ定メラル  
 ○函籙内奉送諸員列次  
 一 殯宮葬場殿間函籙内大勳位以下奉送諸員就列ノ順序左ノ如シ

松明 任人

大勳位

内閣總理大臣

元帥

朝鮮總督

大臣待遇

松明 任人

各大臣

陸海軍大將

樞密顧問官

樞密院副議長

殖産局總裁

親任待遇

勳二等旭日桐花大綬章

公儀日章

特命全權大使

關東都督

(以上三列行進)

(以下五列行進)

從二位

勳二等旭日大綬章

勳二等瑞雲章

高等官二等

侯爵

正二位

官報號外

大正元年九月七日(明治三十二年三月三十一日第三種郵便物認可)



高等官二等

麿香間祇候

錦鍋間祇候

勅任待遇

伯爵

從二位

勳二等旭日章

勳二等瑞寶章

子爵

正三位

從三位

勳三等旭日章

勳三等瑞寶章

男爵

正四位

從四位

松明 任人

衆議院議長

松明 任人

貴族院議長

貴族院副議長

貴族院議員

松明 任人

帝國學士院會員

松明 任人

衆議院副議長

衆議院議員

松明 任人

高等官三等 高等官四等 高等官五等

松明 任人

東京市長

道府縣會議長

東京市會議長

一 桃山假停車場陵所間函簿内大勳位總代以下奉送諸員就列ノ順序左ノ如シ

大勳位總代

國務大臣總代

大臣待遇總代

陸軍大將總代

海軍大將總代

親任官總代

親任待遇總代

第十六師團長

舞鶴鎮守府司令長官

衆議院議長

京都府下在任ノ公爵

宮内勅任官總代

貴族院議長

公爵總代

東京在勤ノ勅任官總代

侯爵總代

京都府知事

京都府下在任ノ侯爵

京都府下及鄰接府縣下在勤ノ勅任官

朝鮮貴族總代

京都府下在任ノ伯子男各爵

伯子男各爵總代

東京在勤ノ委任官總代

宮内委任官總代

官報 大正五年九月七日

京都府下在勤ノ奏任官總代

京都府會議長

(以上五列符進)

大喪彙報

○大喪儀參列諸員心得 大喪儀參列諸員心得左ノ如シ

第一 殯宮葬場殿間函簿内奉送心得

殯宮葬場殿間函簿内奉送諸員ハ左記區分ノ通午後七時マテニ參集ノ事

○大勳位親任官大臣待遇親任待遇貴族院議長衆議院議長ハ大手門又ハ通

用門(代官町通近衛歩)ヲ入り東車寄ニテ下乘名刺ヲ掛員ニ差出シ宮殿

東一ノ間及左廂ヘ參集ノ事

○公爵從一位勳一等高等官一等侯爵正二位高等官二等爵香間祇候錦鶏間

祇候勳任待遇伯爵從二位勳二等子爵正三位從三位勳三等男爵正四位從

四位ハ大手門又ハ通用門ヲ入り東車寄前坂下ニテ下乘名刺ヲ掛員ニ差

出シ東車寄前(テント)ニ參集ノ事

○貴族院副議長衆議院副議長貴族院議員衆議院議員帝國學士院會員高等

官三等同四等同五等東京市長道府縣會議議長東京市長道府縣會議議長ハ櫻田門又ハ

和田倉門外ニテ下乘ノ名刺ヲ掛員ニ差出シ宮城正門前外庭芝地内(テ

ント)ニ參集ノ事

但シ通常禮服ヲ着用スル者ニテ勳六等以上ノ勳章ヲ佩用セサル者

ハ名刺ヲ差出シタル際掛員ヨリ徽章ヲ受取り之ヲ上衣ノ左胸部ニ附

著スヘシ之ヲ附著セサル者ハ函簿内ニ入ルコトヲ拒絶ス

靈柩殯宮ヨリ出御前掛員ノ誘導ニ依リ左ノ位置ニ臚列シ靈輦通御ノ後甲

號記載ノ順序ニ從ヒ函簿内ニ入ル事

○大勳位親任官大臣待遇親任待遇貴族院議長衆議院議長ハ御車寄前鐵橋

内西側石垣角ヨリ南西側ニ至ル間ニ於テ斜ニ臚列ノ事

○公爵從一位勳一等高等官一等侯爵正二位高等官二等爵香間祇候錦鶏間

祇候勳任待遇伯爵從二位勳二等子爵正三位從三位勳三等男爵正四位從

四位ハ御車寄前鐵橋内東側石垣角ヨリ土手ニ沿ヒ臚列ノ事

○帝國學士院會員高等官三等同四等同五等ハ正門前外庭芝地ノ南端ニ沿

ヒ臚列ノ事

○貴族院副議長衆議院副議長貴族院議員衆議院議員東京市長道府縣會議

議長東京市長道府縣會議議長ハ正門前外庭芝地ニ面シタル鐵柵ニ沿ヒ臚列ノ事

函簿葬場殿ニ著シタルトキハ掛員ノ誘導ニ依リ各指定ノ位置ニ就ク事

服裝雨具及車馬等ニ關スル事項ハ第四注意ノ條ヲ參看ノ事

第二 葬場殿先著心得

葬場殿ニ先著ノ諸員ハ表門(青山北町)權田原門(練兵場東)霞ヶ岳門(練兵場西側)

ヨリ參入ノ事

馬車自動車又ハ乘馬ニテ參入スル者ハ乘車馬ノ儘表門ヨリ入り人力車ニ

テ參入スル者ハ第四注意ノ條ニ示シタル人力車置場ニ於テ下乘シ表門權

田原門又ハ霞ヶ岳門ヨリ入ル事

表門ヨリ參入スル者ハ左ノ道筋ニ依リ午後八時マテニ參集ノ事

○青山共同墓地通右ハ青山通青山北町三丁目表門ヘ

○青山北町七丁目方面ヨリ青山通青山北町三丁目表門ヘ

○赤坂新坂町通青山離宮表門前左ハ青山通青山北町三丁目表門ヘ

○紀伊國坂方面ヨリ青山離宮外廓ニ沿ヒ青山通青山北町三丁目表門ヘ

權田原門ヨリ參入スル者ハ左ノ道筋ニ依リ午後七時マテニ參集ノ事

但シ午後七時ヨリ同八時マテノ間ハ權田原ヨリ青山離宮外廓ニ沿ヒ左

ヘ右ハ青山通青山北町三丁目表門ニ至ルコトヲ得

○安珍坂ヲ上リ權田原門

○大番町ヨリ信濃町ヲ經テ權田原門ヘ

霞ヶ岳門ヨリ參入スル者ハ千駄ヶ谷通ヨリ午後七時マテニ參集ノ事

當日ニ至リ通路雜踏スルトキハ警察官ニ於テ臨時道筋ノ變更ヲ求ムルコ

トアルヘシ

表門權田原門又ハ霞ヶ岳門ヲ入りタルトキハ通用門ニ至リ資格(官職位

資受領者ハ其ノ資受領名總代ハ氏名ヲ記載シタル名刺ヲ掛員ニ差出ス事

其ノ旨夫人ハ其ノ夫ノ資格ハ氏名ヲ記載シタル名刺ヲ掛員ニ差出ス事

但シ通常禮服ヲ着用スル者ニテ勳六等以上ノ勳章又ハ徽章ヲ佩用セ

サル者ハ其ノ際掛員ヨリ徽章ヲ受取り之ヲ上衣ノ左胸部ニ附著スヘシ

之ヲ附著セサル者ハ葬場殿帳舎内ニ入ルコトヲ拒絶ス

通用門ヲ入りタルトキハ乙號記載ノ通帳舎内ノ位置ニ就ク事

靈輦著御ノ時ハ一聲ノ喇叭號音ヲ爲スヘキニ付キ帳舎内ノ諸員ハ各自其

ノ著床ノ位置ニ於テ起立奉迎シ帳門ヲ閉ケタル後ニ至リ著床スヘキ事

服裝雨具及車馬等ニ關スル事項ハ第四注意ノ條ヲ參看ノ事

第三 葬場殿内心得

葬場殿帳舎内著床ノ諸員ハ撰リニ其ノ位置ヲ離ルヘカラサル事

親王親王妃玉妃嬪舍ノ本位ニ參進ノ時一聲ノ喇叭號音ヲ爲スヘキニ付  
キ著床ノ諸員ハ直ニ起立シ天皇皇后皇太后嬪舍ニ出御御椅子ニ著御ノ後  
著床スヘキ事

祭官長祭詞ヲ奏スル時ハ一聲ノ喇叭號音ヲ爲スヘキニ付キ著床ノ諸員ハ  
直ニ起立シ宮内大臣誅ヲ奏シ畢リタル後著床スヘキ事

諸員拜禮ノ時ハ一聲ノ喇叭號音ヲ爲スヘキニ付キ各自其ノ著床ノ位置ニ  
於テ起立シ一齊ニ拜禮ヲ行ヒ訖テ著床スヘキ事

天皇便殿ニ入御ノ時ハ一聲ノ喇叭號音ヲ爲スヘキニ付キ著床ノ諸員ハ直  
ニ起立シ親王親王妃玉妃嬪舍ニ退下後著床スヘキ事

前項入御ノ後ハ掛員ノ誘導ニ依リ  
○大勳位親任官大臣待遇親任待遇並以上夫人ハ停車場ニ參進南側ブラッ  
トホームニ整列ノコト

○幄舍内著床ノ諸員中供奉列車ニ便乗ヲ許サレタル者ハ直ニ竹垣外東北  
隅ノ鐵道線路附近ニ假設シタル大喪列車乗組者控所ニ集合ノコト

靈柩乘御ノ列車御發軔ノ時ハ一聲ノ喇叭號音ヲ爲スヘキニ付キ停車場ニ  
參進ノ諸員ハ其ノ位置ニ於テ又幄舍内ノ諸員ハ起立シテ拜禮奉送スヘキ  
事

參列諸員ノ退下スヘキ時期ハ天皇皇后皇太后還御各皇族退下ノ後ニ於テ  
掛員ヨリ之ヲ報知スヘキ事

第四 注意  
參集諸員ノ服裝ハ大禮服正裝正服制服ナキ者ハ通常禮服喪等神佛各宗派  
ノ管長及住職ハ之ニ相當スル服其ノ他服裝ニ關シテハ左ノ通トス

一 勅任待遇ハ勅任官大禮服奏任待遇ハ奏任官大禮服

一 判任官ハ通常禮服燕尾ヲ着用スルコトヲ得

一 貴族院議長衆議院議長貴族院議員衆議院議員ハ簪ヲ有スル者ハ有  
簪者大禮服位階ヲ有スル者ハ非役有位大禮服其ノ他ノ者ハ通常禮  
服燕尾但シ有簪者又ハ有位者ト雖貴族院議長衆議院議長貴族院議  
員衆議院議員ノ列次ニ就ク場合ハ通常禮服燕尾ヲ着用スルコトヲ  
得

一 道府縣會議長市長市會議長市參事會員區長區會議長商業會議所  
會頭中學校及高等女學校ノ程度以上ノ私立學校長村長ハ簪ヲ有ス  
ル者ハ有簪者大禮服位階ヲ有スル者ハ非役有位大禮服其ノ他ノ者  
ハ通常禮服燕尾但シ有簪者又ハ有位者ト雖道府縣會議長市長市會

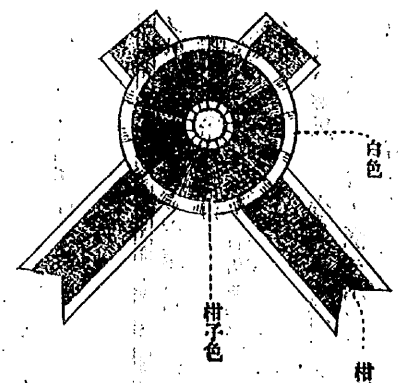
議長市參事會員區長區會議長商業會議所會頭中學校及高等女學  
校ノ程度以上ノ私立學校長村長ノ列次ニ就ク場合ハ通常禮服燕尾  
ヲ着用スルコトヲ得代理者ヲ許シタル場合ニ於テ其ノ代理者ノ服裝  
ニ付キ亦同シ

一 奏章紅綬袞章綠綬袞章受領者ハ通常禮服燕尾奏章ヲ佩用スヘシ  
朝鮮臺灣樺太在任人總代ハ通常禮服燕尾但シ朝鮮人及臺灣人ハ朝  
鮮總督又ハ臺灣總督ニ於テ指定シタル各團存ノ禮服燕尾ヲ着用  
スルコトヲ得

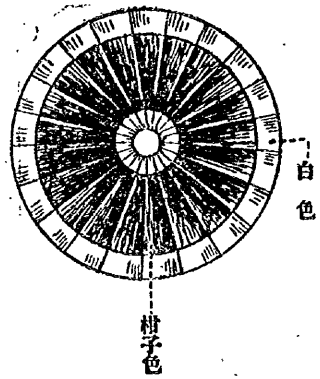
一 女子ハ洋服ナルトキハ通常服皇室喪服規程女子喪服和服ナルトキ  
ハ桂袴皇室喪服規程女子喪服第貳期第一期ノ喪服

一 大禮服ニ代用スルコトヲ得ル制服ハ黒色ノモノニ限リ着用スルコト  
ヲ得

一 大禮服及通常禮服ノ襟袖及手袋ハ白色トシ左ノ通喪章ヲ附スヘシ  
大禮服ニ在リテハ黒紗幅凡三寸ヲ左腕ニ纏ヒ黒紗ヲ以テ劍又ハ刀又ハ  
短刀ヲ柄ヲ卷ク通常禮服燕尾ニ在リテハ黒紗幅凡三寸ヲ以テ帽  
ヲ卷キ黒紗三寸ヲ左腕ニ纏フ



一 勳章ヲ有スル者ハ必ス本綬ヲ佩用スヘシ  
雨天ノ節ハ陸軍武官ハ雨覆又ハ外套海軍武官ハ雨衣又ハ二重外套警察官  
共ノ他外套ノ制アル者ハ其ノ外套ヲ用ヒ其ノ他ノ者ハ各自手傘ヲ携帶ノ  
事  
掛員ハ總テ左圖ノ如キ徽章ヲ佩用セルニ付キ參集諸員中所要アル者ハ右  
徽章佩用者ニ申出ツル事



葬場殿及其ノ附近ノ略圖ハ丙號ノ如シ

鹵簿内及葬場殿幄舎内ニ於テハ喫煙セサル事

靈輦宮城御出門ハ十三日午後八時靈柩列車青山假停車場御發軔ハ翌十四日午前二時ナリ

殯宮葬場殿間鹵簿内奉送諸員ニシテ宮城内ニ於テ下乗シタル者ノ車馬ハ總テ通用門ヨリ退出ノ事

葬場殿ニ先著ノ諸員ニシテ馬車自動車及乘馬ニテ參集スル者ハ大勳位親任官大臣待遇親任待遇貴族院議長衆議院議長各國交際官並以上夫人ニ在リテハ青山通表門右側ヲ入り掛員ノ指示ニ從ヒ下乗シ其ノ他ノ者ニ在リテハ青山通表門左側ヲ入り掛員ノ指示ニ從ヒ下乗ノ事

葬場殿ニ先著ノ諸員ニシテ人力車ニテ參集スル者ノ下乗場所ハ左ノ如シ

○青山共同墓地巡查派出所前東西貫通道路以南

○安珍坂下

○輜重兵第一大隊兵舎角

○青山郵便局前

○霞ヶ岳門前

○赤坂新坂町二十六番地先以南(六本木通)

○葬場殿參列諸員ノ車馬置場ハ左ノ如シ

(一)馬車自動車乘馬ノ置場

○大勳位親任官大臣待遇親任待遇貴族院議長衆議院議長各國交際官並以上夫人乗用ノ分

○其ノ他ノ者乗用ノ分

(二)人力車ノ置場

○勅任待遇以上從二位勳二等以上有爵者及貴族院議員乗用ノ人力車置場ハ權田原廣場

○前項以外ノ者乗用ノ人力車置場ハ左ノ十三箇所トス

青山共同墓地

赤坂區 新坂町二十六番地先ヨリ步兵第一聯隊東南角以南

青山北町五丁目二番地以西三町ノ間

南町十四番地角ヨリ三十九番地角ニ至ル

安珍坂下空地

安珍坂下ヨリ霞ヶ岳橋門ヲ經テ東宮御所西北角ニ至ル

東宮御所外庭道路二箇所

四谷區

霞ヶ岳町元交番所跡ヨリ西へ直線ニ橋梁ニ至ル

同町四番地角ヨリ十一番地角ヲ經テ同町二十番地角ニ至ル

輜重兵器支廠西南角ヨリ新宿御苑正門マテノ間

新宿御苑正門ヨリ左右各一町半ノ間

荒木横町

臨町ヨリ新宿御苑裏門マテ北側

各車馬置場ニ收容シ得ヘキ車輛數ニ相當スル番號票ヲ調製シ之カ交付方

ヲ警視廳ニ委託シタルニ付キ當日乘馬車ニテ參集セムトスル者及迎ノメ

車馬ヲ差廻サムトスル者ハ九月十一日マテニ警視廳ヨリ番號票ヲ受取

リ置ク事番號票ノ交付ヲ受ケサル者ハ指定ノ置場ニ入ルコトヲ得サルモ

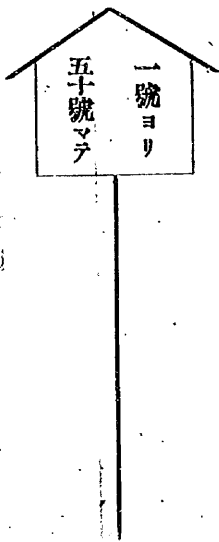
トス

但シ人力車ニ付テハ番號票ヲ受取ル際各自希望ノ置場所ヲ申出ツベシ

車馬置場ハ總テ左圖ノ如キ番號ヲ記入セル建札アルニ付キ乗用セル車

馬及迎ノメ差廻シタル車馬ハ總テ其ノ番號票ノ屬スル建札ノ位置ニ置

ク事



○馬車自動車置場ノ建札ハ五十輛毎ニ區劃シテ置場ノ位置

ヲ明ニス

○人力車置場ノ建札ハ二百輛毎ニ區劃シテ置場ノ位置ヲ明

ニス

參列ノ諸員ハ歸途呼次人ニ番號ノ所在ヲ尋ネ其ノ番號建札ノ場所ニ至リ

各乘車馬ノコト

御道筋及葬場殿附近ニハ丁號ノ如ク救護所ヲ設ク

甲號

松明任人

大勳位

内閣總理大臣

元帥

朝鮮總督

各大臣

大臣待遇

松明任人

陸海軍大將

樞密顧問官

樞密院副議長

拓殖局總裁

親任待遇

勳一等旭日桐花大綬章

公爵

特命全權大使

關東都督

(以上三列行進)

(以下五列行進)

從一位

勳一等旭日大綬章

勳一等瑞寶章

高等官一等

侯爵

正二位

高等官二等

辟香間祇候

錦織間祇候

勅任待遇

伯爵

從二位

0300

勳二等旭日章

勳二等瑞寶章

子爵

正三位

從三位

勳三等旭日章

勳三等瑞寶章

男爵

正四位

從四位

衆議院議長

貴族院副議長

貴族院議員

松明 仕人

帝國學士院會員

松明 仕人

衆議院副議長

衆議院議員

松明 仕人

高等官三等 高等官四等 高等官五等

松明 仕人

東京市長

道府縣會議長

東京市會議長

官報號外

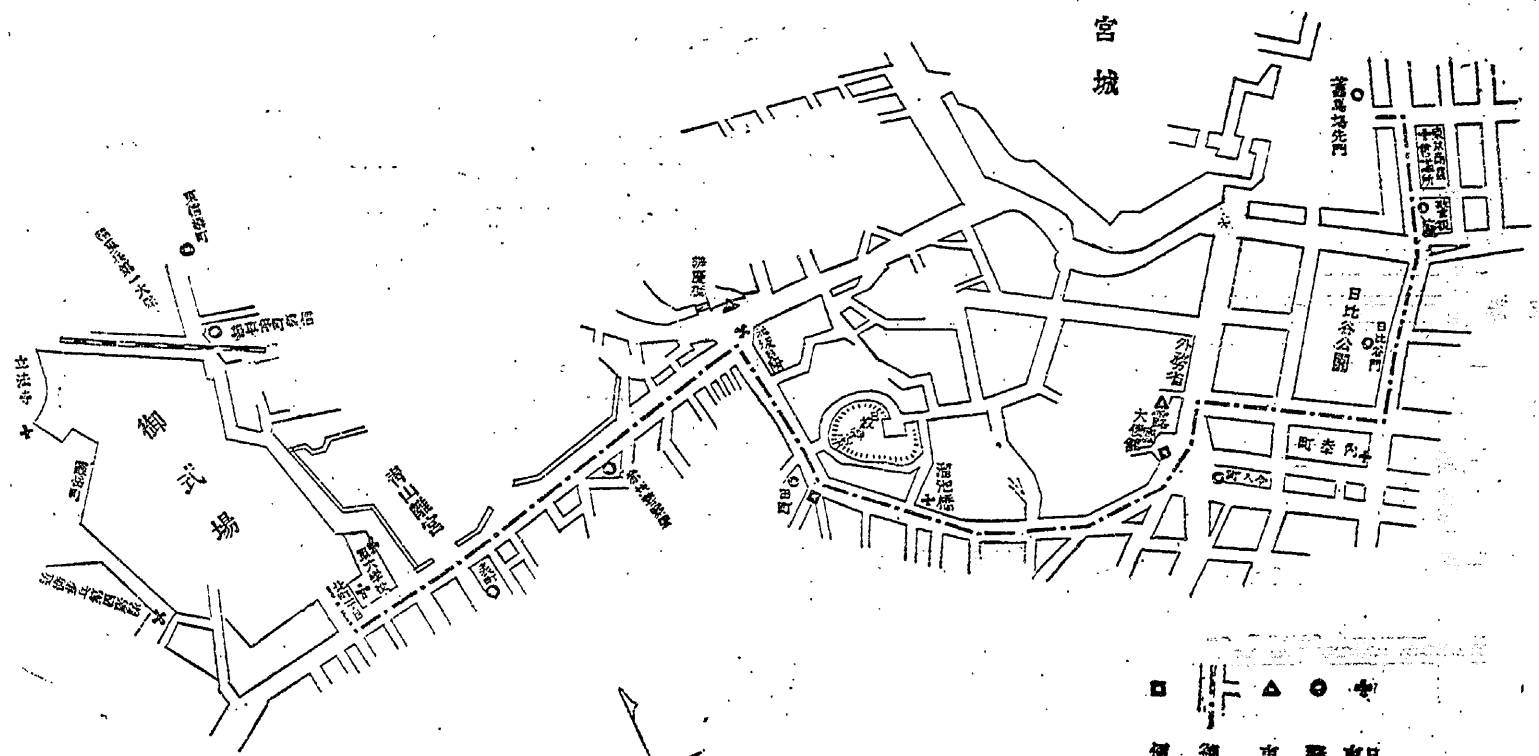
大正元年九月八日

五









- 日本赤十字社救護所
- △ 警視廳救護所
- 東京市救護所
- 御道
- 所

# 官報

號外

大正元年九月九日

月曜日

印刷局

○大正元年九月九日

任陸軍歩兵少尉

任海軍少尉

補近衛歩兵第一聯隊附

補第一艦隊附

敘大勳位授菊花大綬章

皇太子 裕仁親王

皇太子 裕仁親王

陸軍歩兵少尉 裕仁親王

海軍少尉 裕仁親王

皇太子 裕仁親王

官報號外

大正元年九月九日(明治三十五年三月三十一日第三種郵便物認可)

高知縣立第二中學校教諭ニ任ス 從七位 佐野 憲一  
 大阪府堺市立堺女子手藝學校校長ニ任ス 大阪府堺市立堺 女子手藝學校校長 安西卯三郎  
 奈良縣立郡山中學校教諭ニ任ス 奈良縣立郡山中學校教諭 東 辰藏  
 福島縣立安積中學校教諭ニ任ス 福島縣立安積中學校教諭 丸山 英一  
 東牟婁郡新宮町立高等女學校教諭ニ任ス 東牟婁郡新宮町立高等女學校教諭 渡邊 信治

(各通)

歸朝被仰付 巖手縣技師兼馬政局技師 池松 常記  
 免本官專任馬政局技師 朝鮮總督府營林廠事務官 則武勝之進  
 依願免本官(以上九月内閣) 陸軍一等軍醫正從五位勳四等功四級 河西 健次  
 清國皇帝陛下ヨリ贈與シタル三等第一雙龍寶星ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ 允許セラル

(各通)

清國皇帝陛下ヨリ贈與シタル三等第一雙龍寶星ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ 允許セラル  
 關東都督府警視正七位勳六等 佐々木貞七  
 領事從六位勳六等 松原 一雄  
 陸軍三等軍醫正八位勳六等 守田 福松  
 陸軍三等軍醫正八位勳六等 西川 嘉一  
 外務通譯生 勳六等 精谷 康二  
 勳六等 增井 茂松  
 勳六等 松王 數男  
 巽 健雄

(各通)

清國皇帝陛下ヨリ贈與シタル三等第二雙龍寶星ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ 允許セラル  
 關東都督府警視從七位勳七等 橋本 清慎  
 山本 茂

(各通)

清國皇帝陛下ヨリ贈與シタル三等第三雙龍寶星ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ 允許セラル(以上九月内閣)  
 陸軍一等軍醫 從六位勳五等 鈴木 善喜  
 愛媛縣技師 豬狩 恭介  
 愛媛縣技師 鳥海 二郎  
 愛媛縣技師 三島 敏行  
 愛媛縣技師 近藤 唯介  
 宮崎縣技師 稻垣 伯成  
 宮崎縣技師 竹中 武吉

(各通)

年俸參拾圓下賜  
 宮崎縣技師 竹中 武吉

市制第七十條第二項ニ依リ鳥取縣市吏員懲戒審査會員ヲ命ス 鳥取縣事務官 本間 則忠  
 町村制第五十條第二項ニ依リ鳥取縣町村吏員懲戒審査會員ヲ命ス(以上九月内務省)  
 鳥取縣事務官 木間 則忠  
 旅順敷設隊分隊長海軍大尉 橫山 源吉

(各通)

免本職 海軍水雷學校教官海軍少佐子爵 高松 公秋  
 待命被仰付(但横須賀ニ 海軍少佐子爵 高松 公秋  
 待命被仰付(但佐世保ニ 海軍大尉 橫山 源吉  
 待命被仰付(但佐世保ニ 海軍大尉 竹内 寬  
 免本職並兼職補造船監督官 兼檢査官海軍機關中佐 竹内 寬  
 免本職補須賀海軍工廠造船機部部員 兼檢査官海軍機關中佐 武村耕太郎  
 免本職補吳海軍工廠造船機部部員 兼檢査官海軍機關中佐 河合俊太郎  
 免本職並兼職補佐世保海軍港務部部員 兼檢査官海軍機關中佐 出雲 侃  
 免本職補谷機關長兼分隊長 相模分隊長海軍機關大尉 進藤登三郎  
 免本職補千歲分隊長 佐世保海軍港務部部員海軍機關大尉 鈴木 源次  
 免本職補佐世保海軍工廠機裝員 千歲分隊長海軍機關大尉 入枝 駿  
 免本職常乘組被仰付 第十六艇隊附海軍機關中尉 淺井 眞澄  
 免常乘組第十六艇隊附 海軍機關中尉 山本 澤二  
 免本職補第九驅逐隊附 橫須賀水雷團附海軍中主計 熊生 榮  
 免本職 待命被仰付(但佐世保ニ 第九驅逐隊附海軍少主計 牧野 綱  
 待命被仰付(但佐世保ニ 海軍少主計 牧野 綱  
 待命被仰付(但佐世保ニ 海軍少主計 網 網  
 免本職補海軍艦隊本部出仕(以上九月海軍省) 橫須賀海軍工廠造船機部部員海軍技師 鈴木 長雄  
 上京ヲ命ス 東北帝國大學醫學專門部教授醫學博士 山形 仲藝  
 東北帝國大學理料大學教授理學博士 本多光太郎  
 學術上取調ノ爲東京市へ出張ヲ命ス(以上九月東北帝國大學) 旅順工科學堂生徒監ヲ命ス(以上九月關東都督府) 藤井 專隨  
 旅順工科學堂生徒監ヲ命ス(以上九月關東都督府) 東京府立第一中學校教諭 岡田 明達  
 十級俸下賜 東京府北多摩郡立第一中學校教諭 森 繁三郎  
 十一級俸下賜(但當年俸六(以上九月東京府) 長野縣師範 岡田 重治  
 九級俸下賜(但當年俸八(以上九月長野縣) 秋田縣工業講習所技師 宮本 重治  
 年俸七百五十圓下賜(以上九月秋田縣) 師範秋田縣工業講習所技師 宮本 重治  
 十級俸下賜(九月和歌山縣) 和歌山縣立新宮中學校教諭 佐藤 康藏

宮廷録事

○出御 天皇 皇后兩陛下ハ昨九日午前九時八分青山離宮御出門同九時四十分宮城へ出御午後零時十五分宮城御出門零時四十三分青山離宮へ還御アラセラル

彙報

官廳事項

○休職満期 依職關東都府中學校教諭和木貞ハ去月三十日休職満期ト爲レリ  
○官吏懲罰 関李王職長官同職事務官金東亮同務官黒崎智徳、李桐公附武官正崎張實根ハ本月七日款モ上京セリ

池松縣井縣知事杉山高知縣知事若林泰長縣知事宗信縣知事、四久保縣知事、鹿子木香川縣知事、山縣知事、永井金次郎ハ本月七日服部兵衛縣知事、高岡縣知事、大分縣知事、事務官黒崎也ハ八日款モ上京セリ

○官吏懲罰 後備役海軍機關中尉從七位勳五等功六級川村昭太郎ハ去月二十三日死去セリ  
○司法警察及監獄 兵庫縣士族松野士十ノ請求ニ依リ去月三十一日神戶地方裁判所檢察官ニ於テ辯護士名簿ニ登錄セリ

○辯護士名簿登錄 東京地方裁判所所屬辯護士林泰吾ノ請求ニ依リ去月三十一日長崎地方裁判所檢察官ニ於テ辯護士名簿ニ登錄セリ  
○豫約出版届出 豫約出版法ニ依リ警視廳へ豫約出版ヲ届出タルモノノ左ノ如シ

題 號 大國民文庫 全一册 發行所及所 東京市芝區愛宕町三丁目十四番  
著 者 鈴木物幸日高政木和田歌吉小 在 地 地大國民議會  
發行者 西野善吉 著手年月日 大正元年九月十三日  
○出火 本月二日午後十一時二十分愛媛縣知事官舎治村大字今治村ヨリ出火住屋全燒十三日午後三時同三日午前一時鐘火原因過失ナリ

○受刑者刑名別 本年七月末日現在受刑者刑名別左ノ如シ  
懲役刑 無期懲役 三〇六 十五年以上 一五五 十五年未滿 一四二 十年未滿 一〇〇 五年未滿 七六 三年未滿 二五 二年未滿 二五 六月未滿 一五 計 四九六

Table with columns for 刑名 (Punishment Name), 懲役 (Penalty), 無期懲役 (Life Sentence), 十五年以上 (Over 15 years), etc. Includes counts for male and female inmates.

Table with columns for 刑名 (Punishment Name), 懲役 (Penalty), 無期懲役 (Life Sentence), 十五年以上 (Over 15 years), etc. Includes counts for male and female inmates.

# 官報

號外

大正元年九月十三日

金曜日

印刷局

## ○詔書

朕遽ニ大故ニ遭ヒ哀矜已マス前典ヲ繹ネテ惠澤ヲ遠邇ニ洽カラシメ以テ朕カ罔極ノ哀ヲ申ヘムコトヲ念ヒ特ニ有司ニ命シテ恩赦ヲ行ハムトス百僚有衆其レ朕カ意ヲ體セヨ

## 御名 御璽

大正元年九月十三日

内閣總理大臣	侯爵西園寺公望
海軍大臣	男爵齋藤實
逓信大臣	伯爵林董
司法大臣	松田正久
内務大臣	原敬
外務大臣	子爵内田康哉
農商務大臣	男爵牧野伸顯
文部大臣	長谷場純孝
大藏大臣	山本達雄
陸軍大臣	男爵上原勇作

## ○告示

内閣告示第五號

今般慈惠救濟ノ資トシテ陛下賜アラセラレタル金百萬圓頒賜額左ノ如シ

朝鮮	金貳拾萬圓
臺灣	金四萬八千六百圓
關東州	金七千圓
樺太	金壹千圓
北海道	金貳萬貳千八百圓
東京府	金四萬參千參百圓
京都府	金壹萬六千八百圓
大阪府	金參萬壹千圓
神奈川縣	金壹萬七千圓
兵庫縣	金貳萬八千七百圓
長崎縣	金壹萬六千圓
新潟縣	金貳萬六千圓
埼玉縣	金壹萬八千貳百圓
群馬縣	金壹萬參千七百圓
千葉縣	金壹萬九千四百圓
茨城縣	金壹萬八千貳百圓
栃木縣	金壹萬四千圓
奈良縣	金八千壹百圓
三重縣	金壹萬五千貳百圓
愛知縣	金貳萬七千貳百圓
靜岡縣	金壹萬九千九百圓
山梨縣	金八千參百圓

滋賀縣	金九千參百圓
岐阜縣	金壹萬四千五百圓
長野縣	金貳萬壹百圓
宮城縣	金壹萬貳千貳百圓
福島縣	金壹萬七千七百圓
巖手縣	金壹萬壹千參百圓
青森縣	金壹萬六百圓
山形縣	金壹萬參千貳百圓
秋田縣	金壹萬參千壹百圓
福井縣	金八千八百圓
石川縣	金壹萬壹千圓
富山縣	金壹萬八百圓
鳥取縣	金六千貳百圓
島根縣	金壹萬五百圓
岡山縣	金壹萬七千參百圓
廣島縣	金貳萬參千圓
山口縣	金壹萬四千九百圓
和歌山縣	金壹萬四百圓
德島縣	金壹萬參百圓
香川縣	金壹萬四百圓
愛媛縣	金壹萬五千壹百圓
高知縣	金九千六百圓
福岡縣	金貳萬五千圓
大分縣	金壹萬貳千六百圓
佐賀縣	金九千六百圓
熊本縣	金壹萬七千八百圓
宮崎縣	金八千圓
鹿兒島縣	金壹萬八千九百圓
沖繩縣	金七千四百圓

大正元年九月十三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

### ○宮廷錄事

○今十三日惠恤ノ儀ニ付キ左ノ通勅語アラセラレ金百萬圓ヲ下賜ハリタルニ付キ宮内大臣ハ内閣總理大臣ニ移シテ之ヲ執行セリ

勅語

朕大喪ニ丁リ特ニ命シテ内帑ノ金ヲ出シ各地方ニ頒賜シテ以テ慈惠救濟ノ資ニ充テシム

### ○大喪彙報

○斂葬前日殯宮拜禮ノ儀 昨十二日午前九時三十分ヨリ午後六時マテ殯宮拜禮ノ儀ヲ行ハセラレタリ

○斂葬前日陵所祓除ノ儀 昨十二日午前十時陵所ニ於テ祓除ノ儀ヲ行ハセラレタリ



# 官報

號外

大正元年九月十四日

土曜日

印刷局

## ○宮廷錄事

○行幸啓 大喪儀ヲ行ハセラル、ニ付キ 天皇陛下 皇后陛下ハ昨十三日午後八時三十分宮城御出門葬場殿ニ行幸啓今十四日午前二時十五分青山離宮へ還御アラセラル

○皇太后宮御名代 大喪儀ヲ行ハセラル、ニ付キ 皇太后陛下ハ昨十三日葬場殿ニ行啓アラセラルヘキ旨襲ニ仰出サレノ處御都合ニ依リ行啓アラセラレス恆久王妃昌子内親王殿下ニ御名代仰付ケラレタリ

## ○大喪彙報

○靈代奉安ノ儀 昨十三日午前七時權殿ニ於テ靈代奉安ノ儀ヲ行ハセラル

○斂葬當日殯宮祭 昨十三日午前八時斂葬當日殯宮祭ヲ行ハセラルタリ

○大喪儀 昨十三日午後七時二十分靈柩殯宮ヨリ出御御車寄ニ於テ輜車ニ奉遷同八時靈輜御出門同十時四十分葬場殿著御同十一時十五分ヨリ斂葬ノ儀ヲ行ハセラル今十四日午前一時四十分靈柩汽車ニ乘御同二時青山假停車場御發車アラセラレタリ

天皇陛下ノ御誄 内閣總理大臣宮内大臣ノ誄及祭官長ノ祭詞ハ左ノ如シ

### ○御誄

御名諱ミテ 皇考ノ靈前ニ白ス

皇考ノ登遐シ給ヒレヨリ夙夜夢寐溫容ヲ設ル能ハス觀宮ニ殯殿ニ奉饌拜參シテ空シク靈前ニ感泣スルコト早ヤ已ニ四十餘日今ヤ伏見桃山ニ斂葬ヒムトシ輜車ヲ送リテ此ニ來レリ願フニ曩ニ 皇考ノ病革ルヤ上下憂懼シテ天地ニ祈ルアリ茲ニ其ノ葬儀ヲ行フヤ朝野悲傷シテ已マス是レ皆ナ國民忠忱ノ發露スル所ニシテ即チ 皇考德澤ノ感孚スル所ナリ此ヲ思ヒ彼ヲ念ヒ痛悼ノ情倍マス切ナリ嗚呼哀哉

### ○内閣總理大臣ノ誄

内閣總理大臣正二位勳一等侯爵西園寺公望泣血頓首謹ミ言ウス

靈輜殯ヲ啓カセラル饋奠方ニ陳ス群臣咸集マリ友邦畢ク會シ等ク 聖儀ノ幽翳ヲ痛ミタテマツル恭ミテ惟ミルニ

明治天皇睿智神ノ如ク峻德天ニ伴シ沖齡極ニ登リ武ヲ 神皇ノ肇基ニ隨

官報號外

大正元年九月十四日(明治三十一年第三種郵便物認可)

キタマヒ國歩ノ艱難ヲ排シテ維新ノ大業ヲ成シ五條ノ誓文ヲ立テテ百代ノ國是ヲ定メタマヒ藩ヲ廢シ縣ヲ置キ制ヲ革メ治ヲ興シ内ハ憲法ヲ制定シテ軌範ヲ不朽ニ垂レ外ハ條約ヲ改訂シテ利權ヲ永遠ニ伸ヘタマヒ法典ヲ修メ産業ヲ獎メ兵備愛ニ整ヒ文教益振フ常ニ世界ノ平和ニ倦春シタマヒ殊ニ東洋ノ治安ヲ軫念アラセラレ同盟ヲ締ヒ鄰交ヲ敦クシ不運磨乎トシテ我武維揚リ 皇猷淵大ニシテ國威愈宣フ盛德洪業寔ニ前古ヲ曠ウシテ後代ヲ光ラス伏シテ願ミレハ 御寓四十七年ノ間 天行至健ニシテ一日萬機未タ曾テ逸豫シタマハス庶政咸舉リ蒼生永ク賴リ均シク昭代ノ慶福ヲ享ケ舉テ 萬壽ノ無疆ヲ祝シシニ一朝不豫アラセラレ率土震駭シ天ヲ仰キ地ニ踏シ神トシテ禱ラサルナシ吁嗟甚タルモノハ皇穹胡寧レツ用マサル 大駕奄チ登遐シテ永ク兆民ヲ棄テタマヒ 靈柩咫尺ニ在マシテ御容長ヘニ人天ヲ隔ツ龍輦ノ攀ソルニ路ナキヲ悲ミ鳥號ノ尋ヌルニ地ナキヲ傷ム情塞カリ神逼リ復タ言フ所ヲ知ラス伏シテ冀クハ在天ノ 聖靈其レ臣等哀哀ノ微忱ヲ懸ミ偏ニ照鑒ヲ垂レサセタマヘ臣公望茲ニ百僚臣民ニ代リテ泣血頓首謹ミ言ウス

○宮内大臣ノ誄

宮内大臣從二位勳一等伯爵臣渡邊千秋謹ミテ

明治天皇靈輜ノ御前ニ白ス

天皇登極ノ初メ政統紀ナク國勢振ハス人心危懼ヲ抱ケリ而ルニ 天皇精ヲ勵マシ治ヲ求メ百廢俱ニ舉カル典範ヲ制シテ以テ 皇基ヲ鞏クシ勳爵ヲ頒チテ以テ功臣ヲ獎メ兵ヲ閱ミシ方ヲ省ミテ若ニ巡幸ノ親ヲ促シ荒ヲ救ヒ窮ヲ恤ミテ展々内帑ノ金ヲ賜フ紹業ノ德ハ 列聖ニ光カリ垂裕ノ惠ハ後昆ニ垂ル區實隆治ヲ頌シ億兆厚澤ヲ謳ヒ 聖運ノ旺盛ナル古今其ノ比ヲ見ス臣叨ニ大臣ノ職ヲ辱フシ 天威ニ咫尺シテ殊眷ヲ蒙リ 玉體ノ剛健ニシテ 龍顏ノ常ニ壯ナルヲ歎ミ 天資ノ聰明ニシテ 宸斷ノ流ルルカ如キヲ仰キ 萬壽ヲ無疆ニ祝シ寸效ヲ畢生ニ期センニ曷ツ圖ラムニ豈奄チ虐ヲ爲シ 天皇乃チ晏駕セムトハ臣等驚愕痛恨斷然トシテ懷塞スルコト茲ニ數十日今ヤ將ニ伏見ノ桃山ニ斂葬セムトシ恭ミテ 靈輜ヲ護シ以テ大儀ヲ修ム追悼ノ涙止メ難ク敬慕ノ念愈々深シ哀誄ヲ作リ以テ 聖德ヲ稱ス情逼リ神悸レテ言ハムト欲スル所ヲ知ラス臣千秋稽顙謹ミテ奏ス

○祭官長ノ祭詞

此乃葬場殿爾 暫志世奉 留挂卷母 恐伎

明治天皇乃 大前爾 祭官長正二位勳三等公爵鷹司熙通 恐母白 久 忍 母 氣 禮

大御稜威 波 天下内外乃 國爾 伊照利輝 渡利 千萬乃 民草 波 底邊 母 知 奴 深

夜 大御惠 爾 潤 比 仰 伎 奉 利 尊 毘 奉 利 萬 代 母 大 坐 坐 左 事 乎 能 思 懸 氣 奉 利 志 御

病 爾 罹 眞 給 比 俄 昇 遐 坐 志 加 國 內 舉 利 驚 伎 感 比 痛 美 奉 利 殊 爾 大 宮 乃

內 波 晝 夜 深 久 歎 伎 悲 美 給 比 都 殯 宮 爾 坐 世 奉 利 仕 奉 利 世 給 比 志 現 世 波 爲 術 無

氣 禮 今 日 乃 此 日 御 喪 儀 任 奉 利 山 城 國 伏 見 里 桃 山 乃 岩 根 深 久 藏 米 眞 志 給

止 須 是 乎 以 豆 今 志 此 乃 葬 場 殿 爾 坐 世 奉 利 大 御 親 誅 毘 奉 利 拜 世 給 比 禮 代 乃

幣 帛 奉 利 御 食 御 酒 乎 始 米 種 種 乃 物 乎 置 足 波 志 仕 奉 利 眞 志 給 布 事 乎 平 眞 氣 安

眞 氣 開 食 志 道 乃 長 路 恙 奈 久 出 立 世 給 止 白 須 事 乎 開 食 止 恐 美 恐 母 白 須

○外國皇族及特派使節參列 大喪儀ニ付キ特ニ差遣セラレタル 獨逸國皇族

ハインリヒ親王殿下、大不列顛國皇族アーサー、オブ、コンノート親王殿下、西班牙國皇族

ドン、アルフォンソ、デ、オルレアン、イ、ボルボン親王殿下、亞米利加合衆國特派大使

ノックス、佛蘭西國特派大使ルボン、及露西亞國特派大使ニコラス、マレヴスキ

イ、マレヴイッチ、伊太利國特派大使侯爵グ井ツチヨリ、澳地利國特派使節グスタフ

オスカル、ワルレンベルク、墨西哥合衆國特派使節ドン、ラモン、ゼー、パチエゴ

和蘭國特派使節ジャン、ヘルマン、ファン、ロイエン、瑞西國特派使節フェルザナンド

サリス、暹羅國特派使節ブラチャムノン、ザターカー、白耳義國特派使節伯爵

シオルジュ、ドラ、フアイユ、ド、ルヴェルグ、智利國特派使節アルフレッド

イララサウアル、サニヤルツ、丁抹國特派使節伯爵、アールフェルト、ラウル

ライツグ、諸威國特派使節ベ、アンケル、亞爾然、丁國特派使節フランシスコ

オルチス、伯刺西爾國特派使節グスタヴ、オ、デ、ヴィアンナ、ケルシニ、葡萄牙國特派使節

ヘンリケ、オートコンノル、マルチンス、ハ、昨十三日葬場殿ニ於ケル敏葬ノ儀ニ參列セリ

○大不列顛國派遣儀仗隊 大喪儀ニ參列ノタメ大不列顛國支那艦隊ヨリ特ニ派遣シタル

海軍儀仗兵五百人ハ、昨十三日殯宮葬場殿間園簿内後列陸海軍儀仗隊ノ中間ニ加ヘラレタリ

# 官報

號外

大正元年九月十五日

日曜日

印刷局

## ○告示

宮内省告示第六號

明治天皇ノ御陵名左ノ通定メラル

伏見桃山陵

大正元年九月十五日

宮内大臣 伯爵渡邊千秋

## ○大喪彙報

○大喪儀 昨十四日午後五時十分靈柩桃山假停車場著御同六時葱華輦ニ奉遷  
シ同六時三十分靈輦所ニ進御同七時三十五分陵前ノ祭場殿ニ著御今十五日  
午前七時斂葬ヲ終リ同九時御祭典ヲ行ハセラレタリ

官報號外

大正元年九月十五日 (明治三十五年九月十五日) 第三種郵便物認可

# 官報

第四十四號

大正元年九月二十一日

土曜日

印刷局

## 勅令

朕臺灣總督府專賣局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

## 御名 御璽

大正元年九月二十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第二十二號  
臺灣總督府專賣局官制中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノテ加フ  
五 樟樹ノ造林ニ關スル事項

第三條中八十九人ヲ九十三人ニ、三十二人ヲ三十八人ニ改ム

附則  
本ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 閣令

閣令第三號  
本年八月閣令第二號中大喪ノ下ニ第一期ヲ加フ

大正元年九月二十一日  
内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

## 府令

朝鮮總督府令第十三號  
新聞官規制中左ノ通改正ス

大正元年九月十六日  
朝鮮總督 伯爵寺內正毅

官報 (日刊) 第四四號 大正元年九月二十一日 (明治三十五年第三種郵便物認可)

第四條中「傳送」ヲ「送達」ニ改ム

第五條 新聞電報ヲ受ケムトスル新聞社又ハ新聞通信社ハ其ノ持主ノ名ヲ以テ左記各號ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ見本一部ヲ添ヘ當該管理事務分掌郵便局(以下單ニ分)ヲ經テ遞信局長官ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ認可後第二號第三號又ハ第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

### 一 題號

二 記載事項ノ種類

三 發行ノ定日

四 發行所

五 受信人名

認可後前項第一號若ハ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキ又ハ持主ニ異動ヲ生シタルトキハ前項ノ例ニ準シ直ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ持主異動ノ届出ハ新舊持主ノ連署ヲ以テスヘシ

第十五條 新聞電報ノ受信人其ノ電報ノ配達ヲ待タズ著信局所ニ於テ交付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ旨ヲ該局所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ニ依ルノ外遞信局長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ新聞電報ノ配達ヲ爲サズ著信局所ニ於テ之ヲ受信人ニ交付スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ當該分掌局ヨリ其ノ旨ヲ受信人ニ通知ス

第十六條 新聞電報ノ受信人著信局所ニ於テ其ノ電報ノ交付ヲ受ケルトキハ其ノ都度新聞電報受信證書ヲ呈示スヘシ電信局所ニ於テハ新聞電報受信證書ノ所持者ヲ以テ正當受信人ト看做ス

第十七條 第五條ノ認可ヲ受ケタル新聞社又ハ新聞通信社新聞電報ヲ受クルノ要ナキニ至リタルトキハ第五條第二項ノ例ニ依リ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第五條ノ認可ヲ受ケタル新聞社又ハ新聞通信社同條第二項後段又ハ第二項ノ手續ヲ怠リタルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

前二項其ノ他ノ場合ニ於テ新聞社又ハ新聞通信社カ交付ヲ受ケタル新聞電報受信證書又ハ新聞電報受信證書ノ必要ナキニ至リタルトキハ當該分掌局ニ之ヲ返付スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前ノ申請ハ總テ本令施行ノ日ニ於ケル新聞社又ハ新聞通信社ノ持主  
ノ名ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

朝鮮總督府令第十四號

朝鮮總督府始政二周年紀念ノ爲紀念郵便繪葉書ヲ發行シ郵便局及郵便所ニ於  
テ之カ賣捌ヲ爲サシム

大正元年九月十七日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

訓令

農商務省訓令第三號

明治三十八年農商務省訓令第九號ヲ廢止ス

大正元年九月二十一日

農商務大臣 男爵牧野伸顯

告示

鐵道院告示第十五號

明治四十二年十月鐵道院告示第五十四號國有鐵道線路名稱中天鹽線ヲ「宗谷線」  
ニ改ム

大正元年九月二十一日

鐵道院總裁 原敬

宮内省告示第九號

大喪中恆例ノ諸祭典ニハ總テ參拜ニ及ハス

大正元年九月二十一日

宮内大臣 伯爵渡邊千秋

文部省告示第十七號

小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程ニ依リ翻刻發行スル小學校教科用圖  
書中大正二年四月以後使用スル高等小學圖書ノ教科書中定價ヲ改正スルコト  
左ノ如シ

大正元年九月二十一日

文部大臣 長谷場純孝

- 一 高等小學毛筆書帖 定價金五圓五厘
- 一 高等小學算術書帖 定價金六圓
- 一 高等小學新定算帖 第一學年教師用 定價金七圓

遞信省告示第五百一十一號

本日ヨリ左記郵便局ニ電話通話事務ヲ開始ス

大正元年九月二十一日

遞信大臣 伯爵林董

- 名 稱 位 置
- 藤田郵便局 福島縣伊達郡藤田村
- 掛田郵便局 福島縣伊達郡掛田町
- 飯野郵便局 福島縣伊達郡飯野村

- 名 稱 位 置
- 栗野郵便局 福島縣伊達郡栗野村
- 伏黒郵便局 福島縣伊達郡伏黒村

遞信省告示第五百一十二號

明治三十三年八月遞信省告示第三百四十四號電話呼出地域中左ノ通追加シ本日  
リ之ヲ施行ス

大正元年九月二十一日

遞信大臣 伯爵林董

岩代國北會津郡川南村ノ項ノ次ニ

- 岩代國伊達郡藤田村大字藤田(中澤)同山崎字小館同中島
- 岩代國伊達郡掛田町大字掛田字金子町同新町同中町同北町同東原同同西原同同西原
- 岩代國伊達郡飯野村大字西飯野字上飯野川同下飯野川同上ノ川同下ノ川同茶畑大字飯野字町同
- 境川同原田同前川同後川同經坂同宮川同町知同月ノ内同谷戶
- 岩代國伊達郡大久保村字境川同佐原保町同南町同北町同若見同同善門同田端
- 岩代國伊達郡栗野村大字栗野(栗野川)同栗野
- 岩代國伊達郡伏黒村大字伏黒(栗野川)同栗野

遞信省告示第五百一十三號

明治三十九年六月遞信省告示第二百六十四號加入區域外通話區域及通常電話料  
中左ノ通追加改正シ本日ヨリ之ヲ施行ス

大正元年九月二十一日

遞信大臣 伯爵林董

加入區域外 通話區域	一 通常ノ通 常電話料	加入區域外 通話區域	一 通常ノ通 常電話料
藤田仙臺間	金二十五錢	藤田大河原間	金二十錢
藤田福島間	金二十錢	藤田白石間	金二十五錢
藤田米澤間	金二十錢	藤田赤湯間	金二十錢
藤田山形間	金二十五錢	藤田月館間	金十五錢
藤田桑折間	金五錢	藤田長岡間	金十錢
藤田飯坂間	金十錢	藤田掛田間	金十錢
藤田飯坂間	金二十五錢	藤田飯野間	金二十錢
藤田川俣間	金二十錢	藤田飯野間	金十錢
藤田上ノ山間	金二十五錢	藤田伏黒間	金十錢
藤田柳ノ上間	金十錢	藤田仙臺間	金二十五錢
藤田二本松間	金二十錢	藤田福島間	金十錢
藤田五里間	金二十錢	掛田桑折間	金十錢
藤田梁川間	金十錢	掛田飯坂間	金十錢
		飯野桑折間	金二十錢

三級俸下賜

(各通)

年俸參拾圓下賜(以上均内務省)

宮城縣下へ出張ヲ命ス(均内務省)

免本職補朝鮮駐劄憲兵隊分隊長

補廣島憲兵隊分隊長

免本職補步兵第十八聯隊大隊副官

免本職補步兵第十二聯隊附

免本職補獨立守備第五大隊附

免本職補獨立守備第四大隊附

免本職補獨立守備第四大隊副官

免本職補步兵第三十七聯隊附

免本職補北京駐屯步兵隊副官

免本職並兼職補野砲兵第二十聯隊附

第十三師團經理部部長陸軍一等主計

免本職補步兵第十五聯隊附兼第十四師團經理部部長

免本職補第十三師團經理部部長

免本職補臺灣總督府陸軍經理部部長

憲兵練習所御用掛兼勸ヲ免ス

免本職補東京砲兵工廠附

免本職補憲兵司令部附

憲兵練習所御用掛兼勸ヲ命ス

憲兵司令部附陸軍一等主計

備前被仰付(以上均陸軍省)

補大阪區裁判所判事

十級俸下賜(以上均司法省)

退職ヲ命ス(均同)

賜一級俸

五級俸下賜(以上均文部省)

京都府山林會第四回樹苗品評會審査長ヲ命ス(均農商務省)

京都府山林會第四回樹苗品評會審査長ヲ命ス(均農商務省)

大分縣字佐郡長

秋田縣技師

福井縣技師

釀造試驗所技師

廣島憲兵隊分隊長

陸軍憲兵中尉

步兵第十八聯隊

獨立守備第五大隊

獨立守備第四大隊

副官陸軍步兵中尉

獨立守備第四大隊

附陸軍步兵中尉

北京駐屯步兵隊副官

步兵第三十三聯隊

附陸軍步兵中尉

團經理部部長陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

陸軍一等主計

富屋直太郎

高杉三郎

石井昌三郎

佐藤壽衛

竹下剛

齋藤繼述

原田勇

坂本梅二

山縣樂水

杉野宗太郎

伊藤庫治

前田照城

小松千代松

梅田重義

入佐榮之助

春谷萬治

山田鐵太郎

植田實

植田實

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

鈴木幸七

(各通)

犬吠崎燈臺へ出張ヲ命ス(均遞信省)

左ノ遞信管理局區内へ出張ヲ命ス

名古屋 新潟

橫須賀へ出張ヲ命ス

左ノ遞信管理局區内へ出張ヲ命ス(以上均同)

大阪 神戸

九級俸下賜(均高知縣)

年俸八百圓下賜(均宮崎縣)

航路標識管理所長

航路標識管理所技師

航路標識管理所技師

遞信書記官

遞信技師

遞信技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

技師

○官吏發着 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○陸軍 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○陸軍 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○陸軍 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○陸軍 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○陸軍 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○陸軍 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○陸軍 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○陸軍 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○陸軍 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○陸軍 露ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長磯山廣房、同支廳勤務局技師奥田貞衛同局青森支廳勤務局技師熊谷郡四郎ハ本月二十日孰モ出發歸任、海軍戰團射擊實習所シテ同演習地ニ遊遊シ優能武官島内恒太ハ同日孰モ出發歸任、

○所在不明徵兵終決處分未濟者 茨城縣ニ於テ明治四十五年ニ生シタル所在不明ノ徵兵終決處分未濟者左ノ如シ(茨城縣)

同郡和村大字常名一 柴沼 初太郎 三三〇  
同郡中家村大字中高津 酒井 要助 三二七  
同郡石岡町大字石岡無 塚家 彦太郎 三八五

同郡高松村大字下瑞五 内田 實之助 三二〇  
同郡高松村大字平井一 鈴木 辰之助 三二二  
同郡高松村大字西根 中村 淺一 三二二

同郡高松村大字下瑞五 内田 實之助 三二〇  
同郡高松村大字平井一 鈴木 辰之助 三二二  
同郡高松村大字西根 中村 淺一 三二二

同郡高松村大字下瑞五 内田 實之助 三二〇  
同郡高松村大字平井一 鈴木 辰之助 三二二  
同郡高松村大字西根 中村 淺一 三二二

# 官報

號外

大正元年九月二十六日

木曜日

印刷局

## ○勅令

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ恩赦令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

### 御名 御璽

大正元年九月二十六日

内閣總理大臣	侯爵西園寺公望
海軍大臣	男爵齋藤實
逓信大臣	伯爵林董
司法大臣	松田正久
内務大臣	原敬
外務大臣	子爵内田康哉
農商務大臣	男爵牧野伸顯
文部大臣	長谷場純孝
大藏大臣	山本達雄
陸軍大臣	男爵上原勇作

勅令第二十二號

恩赦令

第一條 大赦特赦減刑及復權ハ本令ノ定ムル所ニ依ル  
 第二條 大赦ハ勅令ヲ以テ罪ノ種類ヲ定メ之ヲ行フ

官報號外 大正元年九月二十六日(明治三十五年第三種郵便物認可)

第三條 大赦ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大赦アリタル罪ニ付左ノ效力ヲ有ス

一 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ言渡ハ將來ニ向テ效力ヲ失フ

二 未タ刑ノ言渡ヲ受ケサル者ニ付テハ公訴權ハ消滅ス

第四條 特赦ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ之ヲ行フ

第五條 特赦ハ刑ノ執行ヲ免除ス但シ特別ノ事情アルトキハ將來ニ向テ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得

第六條 減刑ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ勅令ヲ以テ罪若ハ刑ノ種類ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ之ヲ行フ

第七條 勅令ニ依ル減刑ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外將來ニ向テ刑ヲ變更ス

特定ノ者ニ對スル減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕ス但シ特別ノ事情アルトキハ刑ヲ變更スルコトヲ得

第八條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦若ハ刑ヲ變更スル減刑ヲ行ヒ又ハ其ノ減刑ト共ニ猶豫ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第九條 復權ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ法令ノ定ムル所ニ依リ資格ヲ喪失シ又ハ停止セラレタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第十條 復權ハ將來ニ向テ資格ヲ回復ス

第十一條 刑ノ言渡ニ基ク既成ノ效果ハ大赦特赦減刑又ハ復權ニ因リ變更セラレルコトナシ

第十二條 特赦特定ノ者ニ對スル減刑又ハ復權ハ司法大臣之ヲ上奏ス

第十三條 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察又ハ受刑者ノ在監スル監獄ノ長ハ司法大臣ニ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲スコトヲ得

監獄ノ長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察ヲ經由スヘシ

第十四條 特赦又ハ減刑ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 判決ノ謄本又ハ抄本

二 刑期計算書

三 犯罪ノ情狀本人ノ性行受刑中ノ行狀將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調査書類



第十五條 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ職權ヲ以テ又ハ本人ノ出願ニ依リ司法大臣ニ復權ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
復權ノ出願ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
第十六條 復權ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ  
一 判決ノ謄本又ハ抄本  
二 刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタルコトヲ證スル書類  
三 刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル後ニ於ケル本人ノ行狀、現在及將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調査書類  
本人ノ出願ニ依リ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書類ノ外其ノ願書ヲ添附スヘシ

第十七條 特赦、減刑又ハ復權ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ特赦狀減刑狀又ハ復權狀ヲ送付シ之ヲ本人ニ下付セシムヘシ  
第十八條 大赦特赦減刑又ハ復權アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ判決ノ原本ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ  
第十九條 本令中司法大臣ノ職務ハ軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣朝鮮臺灣關東州又ハ帝國カ治外法權ヲ行使スル地域ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ朝鮮總督臺灣總督關東都督又ハ外務大臣之ヲ行ヒ檢事ノ職務ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官其ノ軍法會議ノ理事若ハ主理法院ノ檢察官、民政署長、領事官又ハ即決官廳之ヲ行フ

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十一年勅令第二百十五號第二百十六號及第二百三十號ハ之ヲ廢止ス

朕大赦令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正元年九月二十六日

- 内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
- 海軍大臣 男爵齋藤實
- 遞信大臣 伯爵林董

- 勅令第二十四號
- 大赦令
- 第一條 大正元年七月三十日前左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス
- 一 刑法第七十四條及第七十六條ノ罪
- 二 刑法第七十七條乃至第七十九條ノ罪
- 三 刑法第九十條乃至第九十四條ノ罪
- 四 刑法第六條及第七條ノ罪
- 五 明治十三年第三十六號布告刑法第四百一十一條ノ罪
- 六 陸軍刑法第二十五條第二十六條及第三十條乃至第三十二條ノ罪但シ第三十一條及第三十二條ノ罪ノ中敵國ヲ利スル目的ヲ以テ犯シタルモノヲ除ク
- 七 陸軍刑法第三十五條乃至第三十九條ノ罪
- 八 陸軍刑法第五十七條乃至第五十九條ノ罪
- 九 陸軍刑法第七十三條及第七十四條ノ罪
- 十 陸軍刑法第三百三條ノ罪
- 十一 明治十四年第六十九號布告陸軍刑法第七十一條及第九條ノ罪
- 十二 海軍刑法第二十條第二十一條及第二十五條乃至第二十七條ノ罪但シ第二十六條及第二十七條ノ罪ノ中敵國ヲ利スル目的ヲ以テ犯シタルモノヲ除ク
- 十三 海軍刑法第三十條乃至第三十四條ノ罪
- 十四 海軍刑法第五十五條乃至第五十七條ノ罪
- 十五 海軍刑法第七十一條及第七十二條ノ罪
- 十六 海軍刑法第四百四條ノ罪
- 十七 治安妨害ノ目的ヲ以テ犯シタル爆發物取締罰則ノ罪
- 十八 明治二十二年法律第三十四號ノ罪
- 十九 保安條例違反ノ罪
- 二十 治安警察法違反ノ罪

- 司法大臣 松田正久
- 內務大臣 原敬
- 外務大臣 子爵內田康哉
- 農商務大臣 男爵牧野伸顯
- 文部大臣 長谷場純孝
- 大藏大臣 山本達雄
- 陸軍大臣 男爵上原勇作

二十一 新聞紙法違反ノ罪

二十二 出版法違反ノ罪

二十三 朝鮮臺灣又ハ關東州ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスルモノ

二十四 匪徒刑罰令ノ罪但シ強竊盜ノ目的ヲ以テ犯シタルモノヲ除ク

第二條 前條第一號乃至第二十三號ニ記載シタル罪ト性質ヲ同クスル舊法ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

第三條 前二條ノ場合ニ於テ既ニ徵收シタル罰金、科料、沒收物、追徵金、收贖金及訴訟費用ハ之ヲ還付セズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ○省令

#### 陸軍省令第三號

陸軍ニ於ケル恩赦施行手續左ノ通定ム

大正元年九月二十六日

陸軍大臣 男爵上原勇作

#### 陸軍ニ於ケル恩赦施行手續

第一條 恩赦令ノ規定ニ依リ理事又ハ監獄ノ長軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ストキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ヲ經由スヘシ

第二條 刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官特赦減刑又ハ復権ノ申立書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ但シ監獄ノ長ノ申立ニ係ルトキハ理事ノ意見ヲ徵シ申立書ニ添附スヘシ

第三條 陸軍大臣特赦、減刑又ハ復権ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ申立ヲ爲シタル諸官ニ通知ス但シ理事又ハ監獄ノ長ノ申立ニ係ルトキハ第一條ノ長官ヲ經由ス

第四條 特赦狀、減刑狀又ハ復権狀ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ニ送付シ長官ハ理事ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但シ本人在監中又ハ假出獄中ナルトキハ監獄ノ長ヲ經由シテ本人ニ下付セシムヘシ

第五條 理事又ハ監獄ノ長特赦狀、減刑狀又ハ復権狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ前條ノ長官ニ報告シ長官ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第六條 恩赦アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ理事ハ判決書ノ原本ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

#### 附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### 海軍省令第二號

海軍省令第二號

恩赦施行手續左ノ通相定ム

大正元年九月二十六日

海軍大臣 男爵齋藤實

#### 恩赦施行手續

第一條 主理又ハ監獄ノ長海軍軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ノ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ストキハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ヲ經由スヘシ

第二條 刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官特赦、減刑又ハ復権ノ申立書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ但シ監獄ノ長ノ申立ニ係ルトキハ理事ノ意見ヲ徵シ申立書ニ添附スヘシ

第三條 海軍大臣特赦、減刑又ハ復権ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ順序ヲ經テ其ノ旨ヲ申立ヲ爲シタル諸官ニ通知ス

第四條 特赦狀、減刑狀又ハ復権狀ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ送付シ長官ハ主理ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但シ本人在監中又ハ假出獄中ナルトキハ監獄ノ長ヲ經由スルモノトス

第五條 主理特赦狀、減刑狀又ハ復権狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ前條ノ長官ニ報告シ長官ハ海軍大臣ニ報告スヘシ

第六條 恩赦令第十七條ノ判決原本ノ附記ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ主理之ヲ爲ス

#### 附則

本令ハ恩赦令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### 司法省令第三號

恩赦令施行規則左ノ通相定ム

大正元年九月二十六日

司法大臣 松田正久

#### 恩赦令施行規則

第一條 恩赦令第十三條ニ依リ監獄ノ長特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ申立書ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ必要ナル事項ニ付調査ヲ爲シタル上意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

第二條 恩赦令第十條第二項ニ依ル復権ノ申立書ニハ回復スヘキ資格ノ種類ヲ明記スヘシ

第三條 特赦、減刑又ハ復権ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ檢事又ハ檢事ヲ經由シテ監獄ノ長ニ通知ス

第四條 恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ直ニ之ヲ本人ニ下付スヘシ但シ本人  
在監中ナルトキハ監獄ノ長ヲ經由スヘシ

檢事假出獄中ノ者ニ恩赦狀ヲ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ住居ノ地ヲ管轄ス  
ル地方裁判所ノ檢事、監獄ノ長及監督警察官署ニ通知スヘシ

本人他ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ恩赦狀ノ下  
付及前項ノ通知ヲ囑託スルコトヲ得

第五條 恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢事恩赦令第十八條ニ依リ附記ヲ爲シタル  
場合ニ於テ訴訟記録他ノ裁判所ノ檢事局ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ  
其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ハ之ヲ訴訟記録ニ添附スヘシ

第六條 恩赦狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ檢事ハ速ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申  
報スヘシ

附則  
本令ハ恩赦令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○訓令  
司法省訓令第一號

裁判所  
檢事局  
監獄

本月十三日奉ク 明詔ヲ發シ恩赦ノ慈旨ヲ降シ給フ 聖恩ノ廣深ナル豈啻ニ  
覆載ノ徳ノモナラムヤ正久奉行ノ任ニ膺リ感激措ク能ハス唯、其ノ遵由愆ルア  
リ以テ盛徳ヲ傷ルアラムコトヲ是レ懼ル司法司獄ノ職ニ在ル者亦篤ク 聖旨  
ヲ奉體シ慎重審克シ 詔旨ニ依リ赦宥ヲ得ヘキ者ハ皆恩澤ニ霑ヒ敢テ一人ノ  
遺佚スルナキヲ期ス可シ而シテ其ノ大赦ニ該ル事案ハ迅ニ之ヲ結了シ在監者  
ハ直ニ之ヲ放免ス可シ自餘一般ノ罪囚ニ在リテハ之ヲ其ノ罪狀ニ照ラシ或ハ  
其ノ性行ニ馨ヘ特赦減刑又ハ復權ノ恩典ニ浴セシム可キト否トヲ審究甄別シ  
其ノ恩典ヲ與フ可キヲ認メタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ具狀シテ裁ヲ待ツ可シ而シ  
テ赦宥ノ恩澤ヲ被リタル者ニハ又懇ニ戒飭訓誨ヲ加ヘ有恥心ヲ格シ正ニ就キ  
順ニ歸シ將來永ク忠良ノ民ト爲リ以テ 皇恩ノ萬一ニ報ユル所アラシム可シ  
此ノ如キハ獨リ恩澤ニ遇ヒ赦宥ヲ得タル者ノ幸福タルハミナラス億兆ヲシテ  
倍、聖徳ノ無窮ナルヲ欽仰セシメ且國家ノ靈害ヲ埽除スルニ於テ其ノ效頗ル  
大ナルモノアル可シ局ニ當ル者其レ宜シク夙夜惕勵シテ以テ斯ノ隆典ヲシテ  
克ク其ノ終アラシムルコトニ努ム可シ

大正元年九月二十六日

司法大臣 松田正久

○告示

陸軍省告示第二號

大正元年勅令第二十四號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付陸軍軍法會議ニ於テ刑ノ  
宣告ヲ受ケ既ニ其ノ執行ヲ終リ若ハ執行ノ免除ヲ得タル者又ハ其ノ遺族ニシ  
テ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得ムトスルトキハ其ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ  
長官ニ申出ツヘシ

前項ノ軍法會議存在セザルトキハ陸軍大臣ニ申出ツヘシ  
大正元年九月二十六日 陸軍大臣 男爵上原勇作

海軍省告示第二號

大正元年勅令第二十四號ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付海軍軍法會議ニ於テ刑ノ  
宣告ヲ受ケ既ニ其ノ執行ヲ終リ若ハ執行ノ免除ヲ得タル者又ハ其ノ遺族ニシ  
テ赦免ヲ得タル旨ノ證明ヲ得ムトスルトキハ其ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ  
長官ニ申出ツヘシ但シ艦隊軍法會議及戰時ノ特設軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ  
爲シタルモノニ付テハ總テ東京軍法會議ノ長官ニ申出ツヘシ

大正元年九月二十六日 海軍大臣 男爵齋藤實

司法省告示第十號

大正元年勅令第二十四號大赦令ニ依リ赦免ヲ得ヘキ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケ既  
ニ其ノ執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除ヲ得タル者ニシテ赦免ヲ得タル旨ノ證明  
ヲ受ケントスル者ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ之ヲ申出ツヘシ

大正元年九月二十六日 司法大臣 松田正久

# 官報

號外

大正元年十月五日

土曜日

印刷局

## ○勅令

朕懲戒又ハ懲罰ノ免除ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

### 御名 御璽

大正元年十月五日

内閣總理大臣	侯爵西園寺公望
海軍大臣	男爵齋藤實
逓信大臣	伯爵林董
司法大臣	松田正久
内務大臣	原敬
外務大臣	子爵内田康哉
農商務大臣	男爵牧野伸顯
文部大臣	長谷場純孝
大藏大臣	山本達雄
陸軍大臣	男爵上原勇作

勅令第三十號

官吏又ハ官吏待遇者ニシテ大正元年七月三十日前ノ所爲ニ付懲戒又ハ懲罰ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒又ハ懲罰ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒又ハ懲罰ヲ行ハス

陸軍懲罰令又ハ海軍懲罰令ノ適用ヲ受クル者亦前項ニ同シ  
懲戒又ハ懲罰ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ  
停職中ノ陸海軍軍人ニシテ其ノ停職ヲ免除セラレタル者ハ待命トス  
附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官報號外

大正元年十月五日(明治三十五年第三種郵便物認可)

授旭日中綬章  
陸軍高等官四等  
任侍從  
陸軍高等官七等  
陸軍高等官二等  
任典獄  
陸軍高等官八等  
陸軍高等官三等

帝室林野管理局長官正四位勳三等 佐々木陽太郎  
拓殖局書記官從六位 立花 俊吉  
陸軍步兵少尉從四位勳六等男爵 徳川 義徳  
陸軍教授正六位勳四等 川上 正光  
司法屬正八位勳八等 岡部 安憲

陸軍高等官四等  
陸軍高等官四等  
陸軍高等官四等  
陸軍高等官四等  
陸軍高等官四等  
陸軍高等官四等  
陸軍高等官四等  
陸軍高等官四等  
陸軍高等官四等  
陸軍高等官四等

東北帝國大學農科大學 水産學科教授正六位 鳥山 嶺男  
東北帝國大學醫學專門部教授從六位 遠山 郁三  
東北帝國大學醫學專門部教授從六位 古川 義天  
東北帝國大學醫學專門部教授從六位 大野 直枝  
東北帝國大學農科大學 教授從六位 有島 武郎  
東北帝國大學農科大學 教授從六位 佐々 茂雄  
東北帝國大學農科大學 教授從六位 橋本 好藏  
山日高等商業學校教授從六位 小川 敬次郎  
東北帝國大學醫學專門部教授正七位 加藤 豊治郎  
東北帝國大學醫學專門部教授正七位 原 繁太郎

陸軍高等官七等  
陸軍高等官七等  
陸軍高等官七等  
陸軍高等官七等  
陸軍高等官七等  
陸軍高等官七等  
陸軍高等官七等  
陸軍高等官七等  
陸軍高等官七等  
陸軍高等官七等

茨城縣立龍ヶ崎中學校教諭ニ任ス 須之部 量學  
秋田縣農事試驗場技師ニ任ス 陸軍砲兵少尉正七位 富永 升

三級俸下賜  
拓殖局書記官 立花 俊吉  
典獄 河崎 策五郎  
朝鮮總督府判事 本島 正輔  
朝鮮總督府郡守 盧 載 昇  
秋田縣技師 俞 駿 煥  
秋田縣技師 福士 悟郎

休職高知縣立第三中學校教諭 高橋 幾造  
秋田縣農事試驗場技師 福士 悟郎

願ニ依リ本職ヲ免ス(以上六件ハ内閣)  
清國皇帝陛下ヨリ贈與シタル二等第二雙龍寶星ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ  
大不列顛國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

正五位勳二等 大倉 喜八郎  
海軍大將從二位大勳位功一級伯爵 東郷 平八郎  
海軍大將從二位大勳位功一級伯爵 東郷 平八郎  
海軍大將從二位大勳位功一級伯爵 東郷 平八郎  
海軍大將從二位大勳位功一級伯爵 東郷 平八郎  
海軍大將從二位大勳位功一級伯爵 東郷 平八郎  
海軍大將從二位大勳位功一級伯爵 東郷 平八郎  
海軍大將從二位大勳位功一級伯爵 東郷 平八郎  
海軍大將從二位大勳位功一級伯爵 東郷 平八郎  
海軍大將從二位大勳位功一級伯爵 東郷 平八郎  
海軍大將從二位大勳位功一級伯爵 東郷 平八郎

大不列顛國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第二等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

式部官從三位勳五等子爵 稻葉 正繩  
式部官從三位勳五等子爵 稻葉 正繩  
式部官從三位勳五等子爵 稻葉 正繩  
式部官從三位勳五等子爵 稻葉 正繩  
式部官從三位勳五等子爵 稻葉 正繩  
式部官從三位勳五等子爵 稻葉 正繩  
式部官從三位勳五等子爵 稻葉 正繩  
式部官從三位勳五等子爵 稻葉 正繩  
式部官從三位勳五等子爵 稻葉 正繩  
式部官從三位勳五等子爵 稻葉 正繩

大不列顛國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

總領事從五位勳四等 芳澤 謙吉  
正三位勳一等 井上 勝之助  
陸軍少將正五位勳三等功三級 大庭 二郎  
普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル金剛石裝飾赤綬大綬章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第三等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

式部官兼主簿官正四位 蜂須賀 正昭  
外務書記官正六位勳五等 古谷 重綱  
普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル王冠第二等勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

總領事從五位勳四等 芳澤 謙吉  
正三位勳一等 井上 勝之助  
陸軍少將正五位勳三等功三級 大庭 二郎  
普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル金剛石裝飾赤綬大綬章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル

式部官兼主簿官正四位 蜂須賀 正昭  
外務書記官正六位勳五等 古谷 重綱  
普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル王冠第二等勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

普魯西國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「ヴァイクトリア」第一等勳章ヲ受領シ  
及ヒ佩用スルヲ允許セラル

四級俸下賜  
五級俸下賜

(各通)

六級俸下賜

兵庫縣美藪郡長 中村 兼瀨  
兵庫縣多可郡長 國田 竹熊  
兵庫縣朝來郡長 松永 莊吉  
兵庫縣美方郡長 柴原 琢  
兵庫縣出石郡長 森岡 二朗

兵庫縣三原郡長 草野虎次郎  
陸軍教授 川上 正光  
陸軍教授 林 與吉  
陸軍教授 川田 功  
陸軍教授 大庭 忠藏  
陸軍教授 大庭 忠藏

第六艦隊隊長 海軍大尉 原非 雄一  
第六艦隊隊長 海軍大尉 原非 雄一  
第六艦隊隊長 海軍大尉 原非 雄一  
第六艦隊隊長 海軍大尉 原非 雄一

免本職 待命被仰付 佐世保海兵團分隊長 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 須磨分隊長 海軍大尉 前田 安貞  
免本職 待命被仰付 肥前分隊長 海軍大尉 前田 安貞  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎  
免本職 待命被仰付 海軍大尉 山角真一郎

東京女子高等師範學校教授 近藤 耕藏  
東京女子高等師範學校教授 岡田 みつ  
東京女子高等師範學校教授 解井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝  
東京女子高等師範學校教授 藤井 利孝

宮廷錄事

○出御 天皇陛下ハ一昨十六日午前九時三分青山離宮御出門同九時三十分宮城へ出御午後零時十二分宮城御出門同零時三十分青山離宮へ還御アラレタリ  
○皇后宮行啓 皇太后陛下還御ニ付キ 皇后陛下ハ御奉迎ノタメ昨十七日午後三時十五分青山離宮御出門新橋停車場へ行啓同四時三十分青山離宮へ還御アラセラレタリ  
○皇太后宮御安著 皇太后陛下ハ御豫定ノ如ク一昨十六日午前九時名古屋離宮御出門同九時三十分名古屋停車場御發車午後二時十分静岡停車場御著車同二時二十分静岡御用邸へ御安著アラセラレタリ  
○皇太后宮還御 皇太后陛下ハ御豫定ノ如ク昨十七日午前十分静岡御用邸御出門同十分二十分静岡停車場御發車午後三時五十分新橋停車場御著車同四時二十五分還御アラセラレタリ  
○親任式 一昨十六日午前十一時三十分宮中ニ於テ親任式ヲ行ハセラレタリ

彙報

官廳事項

○官吏發著 一兵庫縣下へ出張ヲ命セラレタル大藏省臨時建設部技師男野崎康徳九八二昨十六日出發セリ  
一埼玉縣馬場木三縣下へ出張ノ際軍醫長兼臨時建設部技師男野崎康徳九八二昨十六日堅太郎八地質調査ノタメ宮城縣加美郡玉城寺原ニ向ヒ同日出發同十三日二若松山形屯在部縣へ出張ノ仁田原同前局長八同十三日就任著安藤歩兵第五旅團長ハ在郷將校團教育觀察ノタメ岐阜縣土岐郡多治見町地方ニ向ヒ同十三日出發同十三日、一奈良市及生駒郡地方へ出張ノ久能歩兵第十九旅團長千葉縣佐原町及茨城縣石岡町地方へ出張ノ吉田騎兵第二旅團長致賀(出張ノ第十六師團參謀長藤原實録)